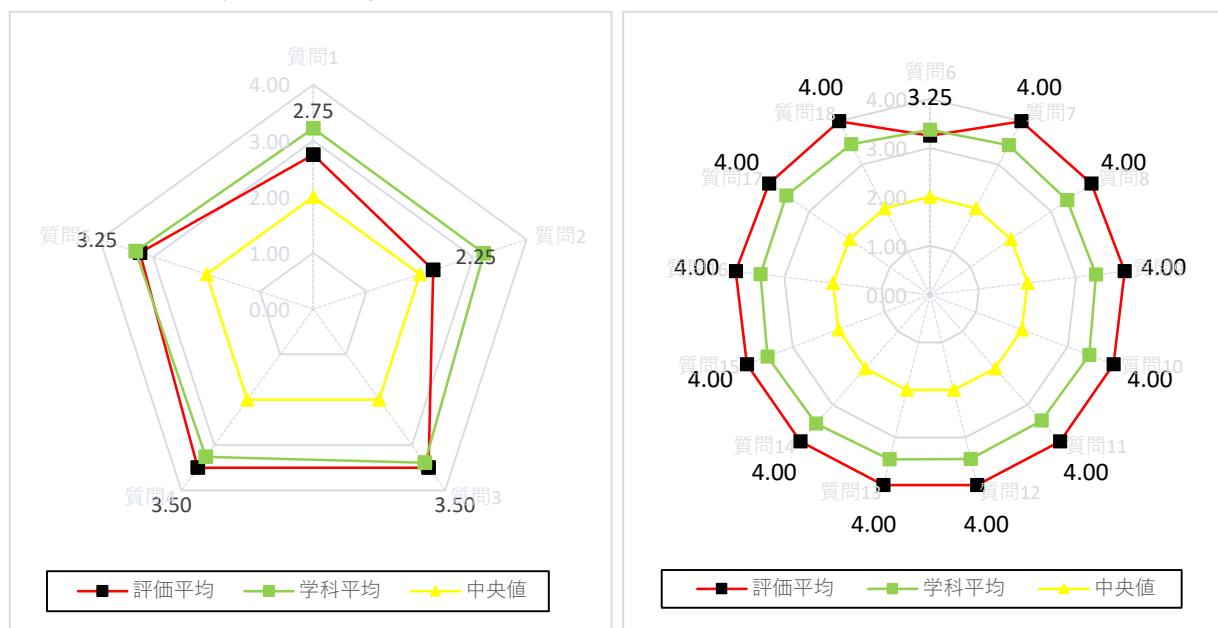


| 学部     | 学科   | 担当者 | 科目名           | 履修者数 |
|--------|------|-----|---------------|------|
| 健康福祉学部 | 社会福祉 |     | あすなろう（初年次教育含） | 6名   |

### （１）学生による授業評価結果



### （２）結果の分析と評価

学生の自己評価項目（質問１～５）について

本クラスにおいては、配慮学生も複数おり、状況に応じて、その都度、相談の上、受講していた。欠席時には、事後連絡や課題提出をするなど、本評価には含まれない努力などがあったと評価している。実際に当該学生が受講した際の態度や課題も１年次の成果としては十分な取り組みだったと思います。またシラバスの活用については、最初にシラバスをもとに説明あとは、講義時に毎回、次回案内やその後の予定を説明していたため、主体的にシラバスを確認するような機会を奪っていたように思います。主体的に学んでいくことを促すためには、シラバスの確認もするように促していく必要があると考える。

教員、授業評価について

学生からの多様な評価と思いました。シラバスについての説明は、初回のみで、その後、シラバスをもとにした説明は行っていなかった。最初だけではなく、中間時にも到達点などを確認するために、利用していきたいと思います。また高評価であったことについては、教員が一方的に話をするのではなく、学生間交流や体験的な活動を取り入れたことが理由と考える。

### （３）次年度に向けての取り組み

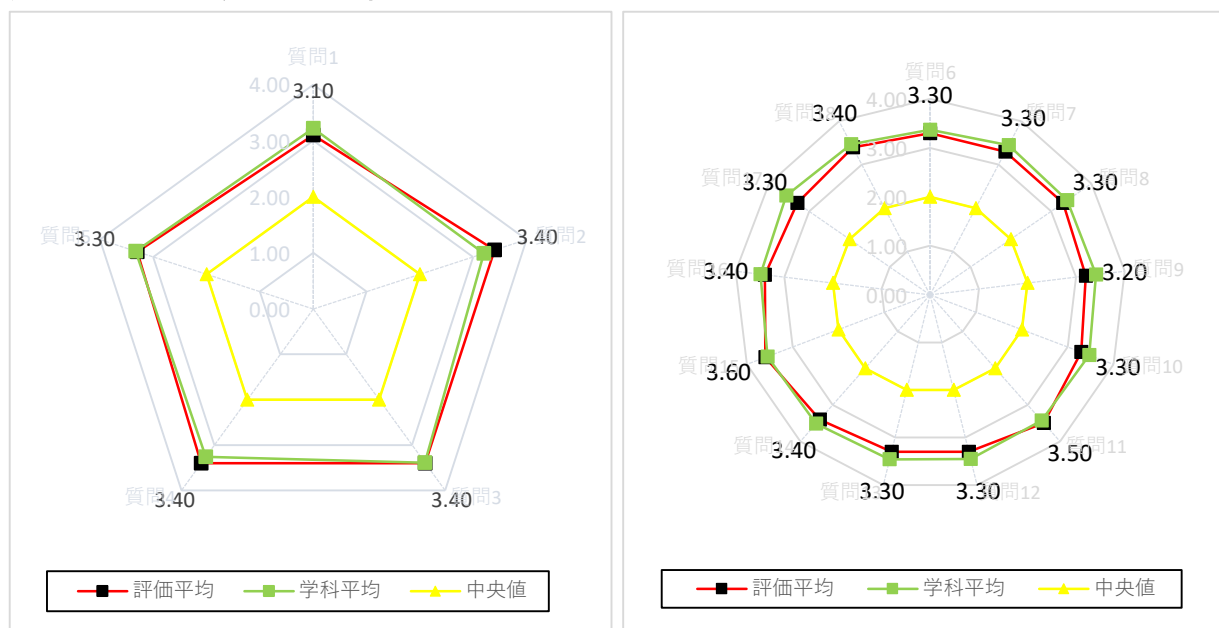
講義には基本的にすべて出席すること、但し、自身の状態や自己管理をすることも大切なことであり、必要に応じた配慮も継続していきたい。

学習意欲、主体性を引き出すために、体験型の学習プログラムは今後も取り入れていきたいと考える。

シラバスにおいては、計画を説明するだけではなく、到達点の確認と課題整理といった評価のためにも活用していく。

| 学部     | 学科       | 担当者 | 科目名           | 履修者数 |
|--------|----------|-----|---------------|------|
| 健康福祉学部 | スポーツ健康福祉 |     | あすなろう（初年次教育含） | 10名  |

### （１）学生による授業評価結果



### （２）結果の分析と評価

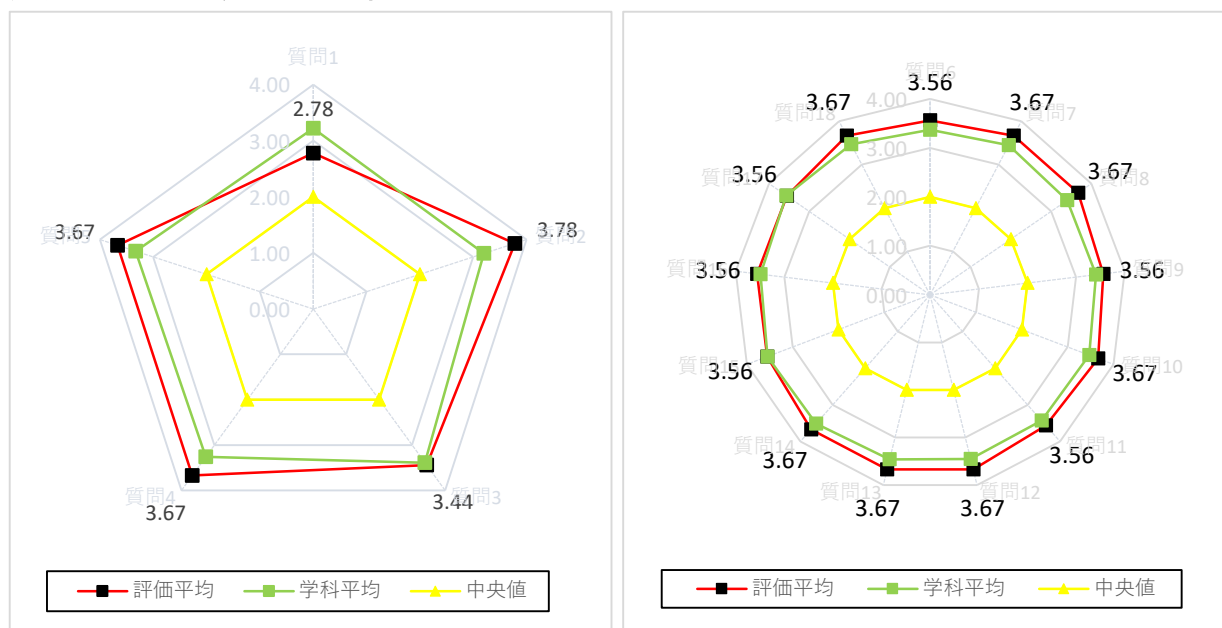
履修者全員からの回答であった。学生自身に関する項目の評価では質問1の授業出席に評価2が2名回答し、質問4の授業の工夫で評価2に1名が回答していたが、その他の項目についての評価は評価4または評価3であった。質問5の総合自己評価では3.3とある程度良好であったと判断する。質問6以降については評価1はないものの、評価2の回答があった項目が6項目あった。全体的には評価4または評価3の回答がほぼ同等の回答であったことと質問18の総合評価では3.4の評価平均であったことから、ある程度の評価を得る授業への取り組みができたものと判断する。

### （３）次年度に向けての取り組み

この教科はゼミ単位での授業ではあるものの学科全体で活動する内容のものが多く、それらを含めた授業評価となっている。そのため学科全体での授業改善も検討する必要もある。個人的には、次年度はさらに良い評価が得られるよう授業改善の工夫に努めたい。

| 学部     | 学科       | 担当者 | 科目名           | 履修者数 |
|--------|----------|-----|---------------|------|
| 健康福祉学部 | スポーツ健康福祉 |     | あすなろう（初年次教育含） | 9名   |

### （１）学生による授業評価結果



### （２）結果の分析と評価

本科目は共通教育科目/キャリア形成(必修科目)として、1年次に通年で開講しており、私が担当するゼミ生9名が履修した。

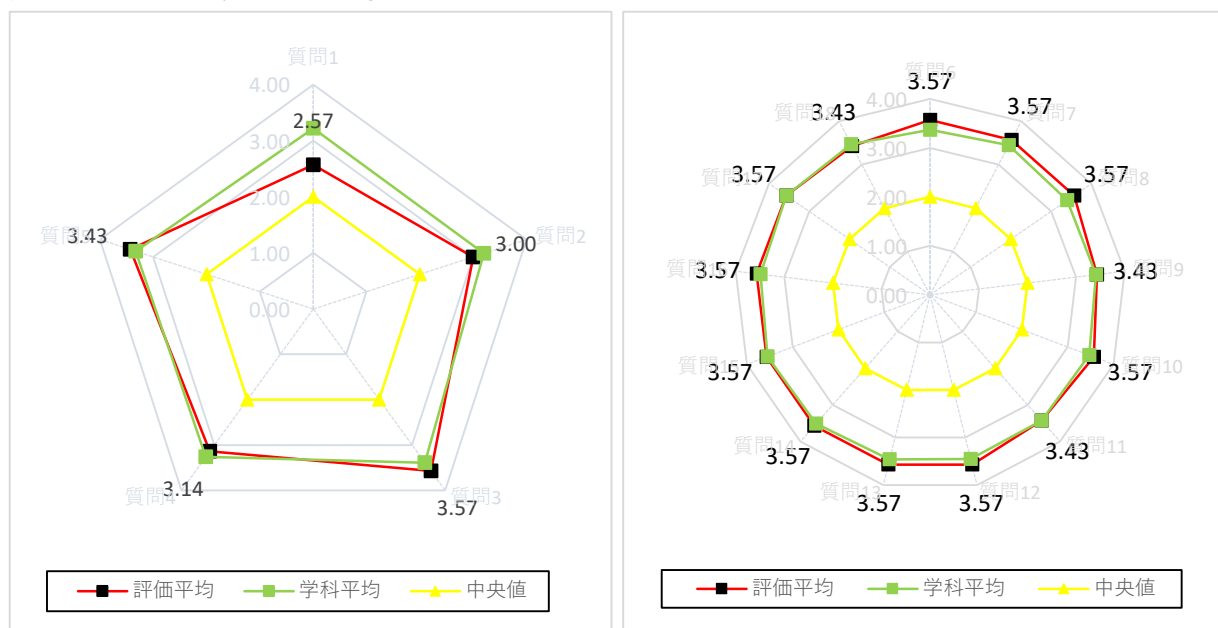
履修学生9名のうち9名全員から回答があり、一部の質問項目を除き概ね学科平均と同程度、または上回る評価を得た。一方、学生の意欲・態度に関する項目の質問1「出欠」は学科平均を大きく下回ったことから、学生の出席率を向上させる努力が必要であると考え。

### （３）次年度に向けての取り組み

次年度も初年次およびリメディアル教育の学科担当者として授業内容の充実を図るとともに、出席率の向上につながる指導を行っていきたい。

| 学部     | 学科   | 担当者 | 科目名       | 履修者数 |
|--------|------|-----|-----------|------|
| 健康福祉学部 | 社会福祉 |     | 発展ゼミナール I | 8名   |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

社会福祉学科2年生の必修ゼミナールである。

学生自身の取り組みを評価する質問1～5については「出席」、「シラバス活用」、「自分での工夫」が平均よりも低い結果となった。

教員の取り組みとしては、ほぼ学科の平均と同様であったが「教科書・配布資料等は役に立ちましたか」

「総合評価」については低い結果となった。

教科書は、ヤングケアラー当事者の方々による手記、学生のまとめ、教員によるレポート、出典・引用の書き方を配布であり、最低限の内容であった。

とくに出典・引用については、手順を詳しく解説（オリジナル）した内容であったにもかかわらず、学生が作成したレポートは、出典や引用の記載は不十分なものが多かった。「役に立たなかった」というよりは「役に立てることができなかった」と考える。

なぜ出典・引用の記載が必要なのか、社会的な背景も含めて説明していく必要がある。

### (3) 次年度に向けての取り組み

教科書は、ヤングケアラー当事者の方々による手記、学生のまとめは2025年度も変わらず進めていく。

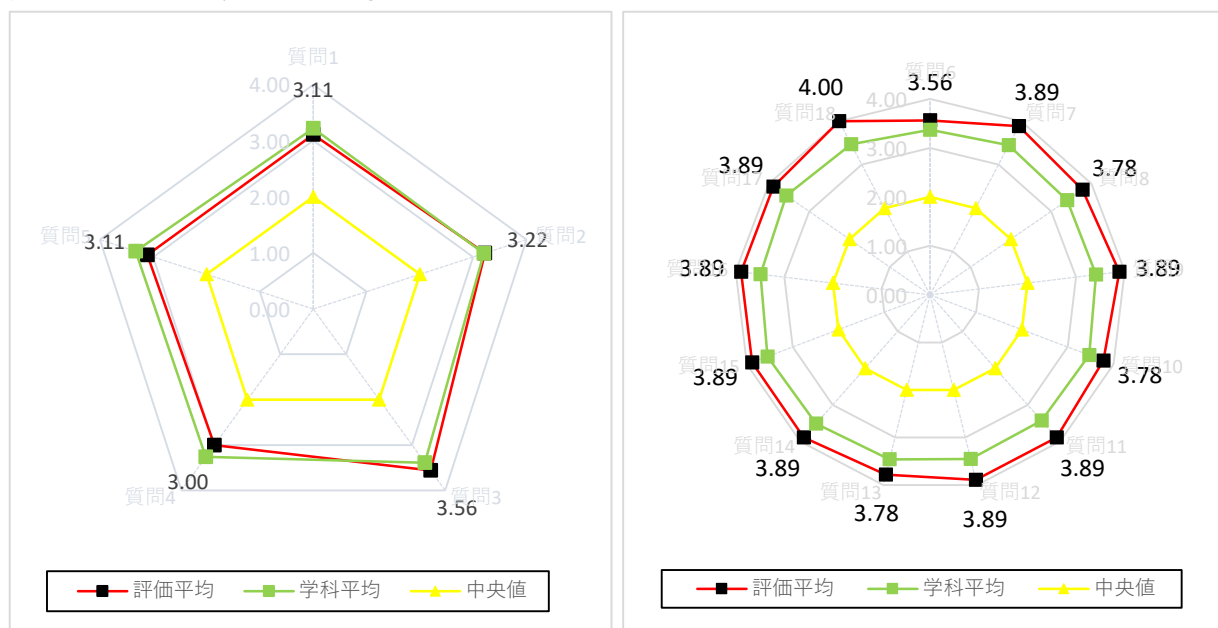
今年度はこのテーマに関する教員の調査研究の成果を加え、関係機関との協働への学生への参画に取り組みたい。

学生が課題として取り組む「書籍を読む」行為が、社会の誰かの支援につながっていることを実感できるようにする。

出典、引用については、なぜ必要なのか説明し、資料を基に作成できるよう授業で取り組みたい

| 学部     | 学科   | 担当者 | 科目名      | 履修者数 |
|--------|------|-----|----------|------|
| 健康福祉学部 | 社会福祉 |     | 発展ゼミナールⅡ | 12名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

質問6については、第1回目の時に知らせていただが、随時行うことが必用であったと考える。その他の項目については、ほぼ4.0を頂いているので、個別に合わせた勧め垢田を行ったことが良かったのだと考えている。

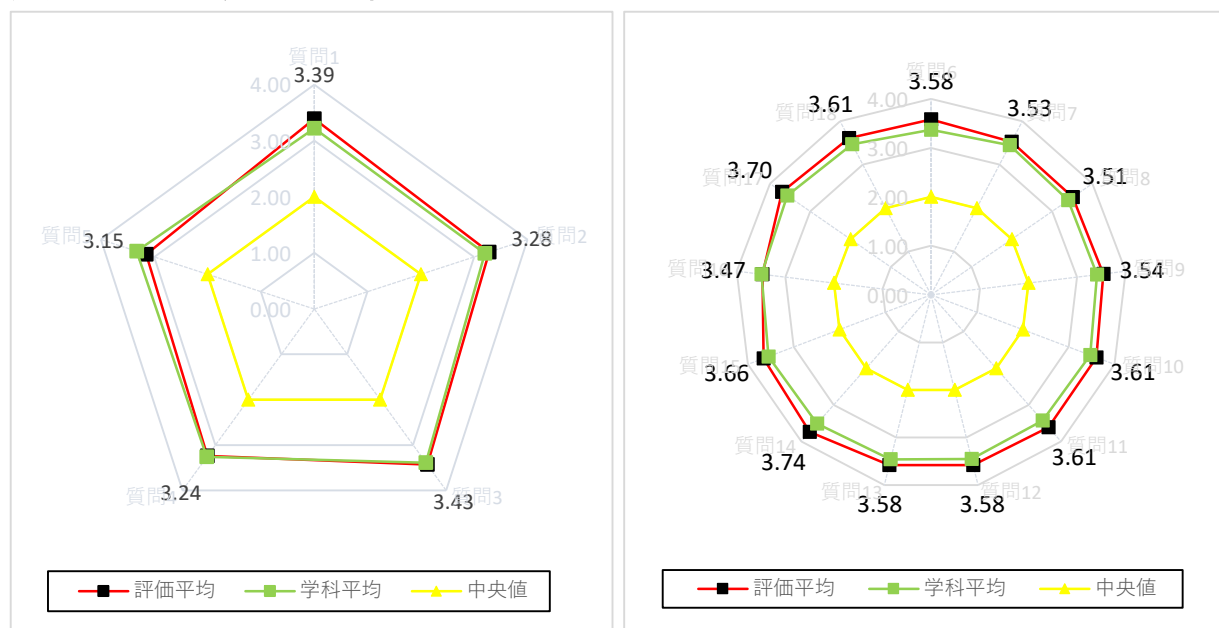
ゼミナールⅡについては、学生の希望ではなく、ランダムなゼミ配置であったが、それぞれの進路に向かって卒論・就職・学生生活と努力していただけたことに感謝する。

### (3) 次年度に向けての取り組み

シラバスの提示、及び個別に合わせた指導を常に念頭に置き、誠実な授業運営を行っていきたいと考える。

| 学部              | 学科                            | 担当者 | 科目名           | 履修者数 |
|-----------------|-------------------------------|-----|---------------|------|
| 健康福祉学部<br>子ども学部 | 社会福祉<br>スポーツ健康福祉<br>心理カウンセリング |     | 人体の構造と機能及び疾病Ⅰ | 82名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

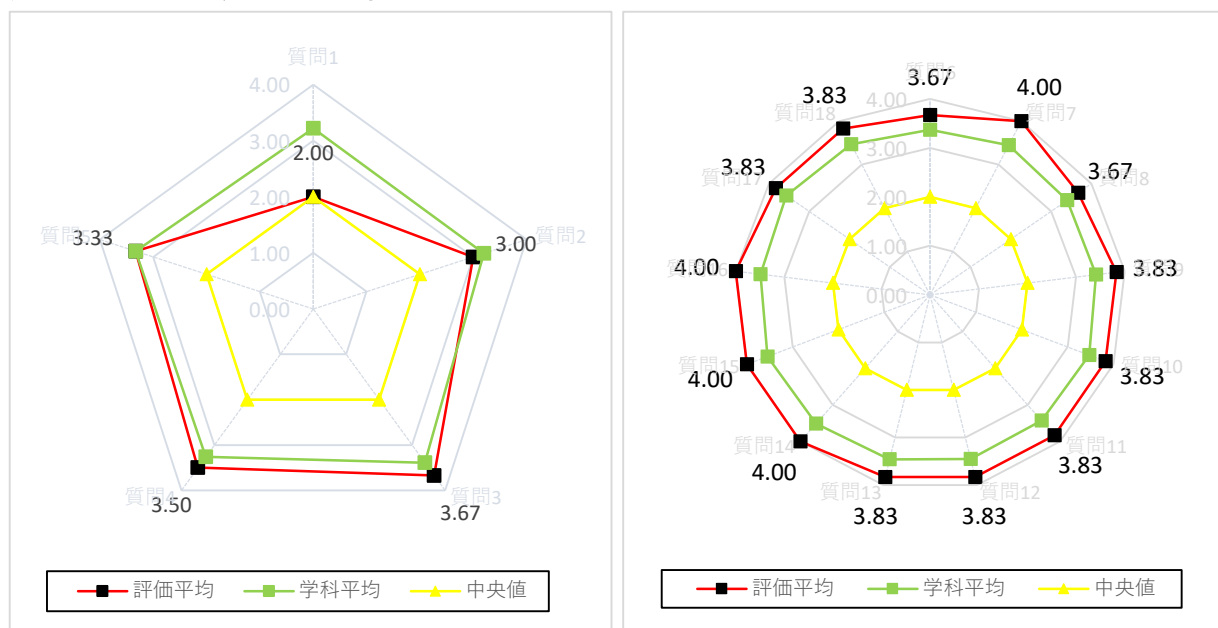
評価は学科平均並みであった。授業の最後に質問コーナーを設けていることやチャットでの質問に答えていることから、「14」の項目については若干評価が高かった。オンラインでの授業を行っているため、学生の反応や習熟度が確認しづらい状況にある。本授業の目標に到達できるよう、単元に応じた模擬問題やプリントを課題に出すなどの工夫を行った。

### (3) 次年度に向けての取り組み

オンライン授業であるため、習熟度を上げるための工夫を継続し行う。専門用語をわかりやすく、また、疾患などについての理解が深まるよう、写真などを最新のものに更新し使用していきたい。全体の中で質問するのは難しいことも考えられるため、引き続き授業の最後にチームスに残り質問できるコーナーを設ける。

| 学部     | 学科   | 担当者 | 科目名             | 履修者数 |
|--------|------|-----|-----------------|------|
| 健康福祉学部 | 社会福祉 |     | 発展ゼミナールⅢ（含卒業研究） | 6名   |

### （１）学生による授業評価結果



### （２）結果の分析と評価

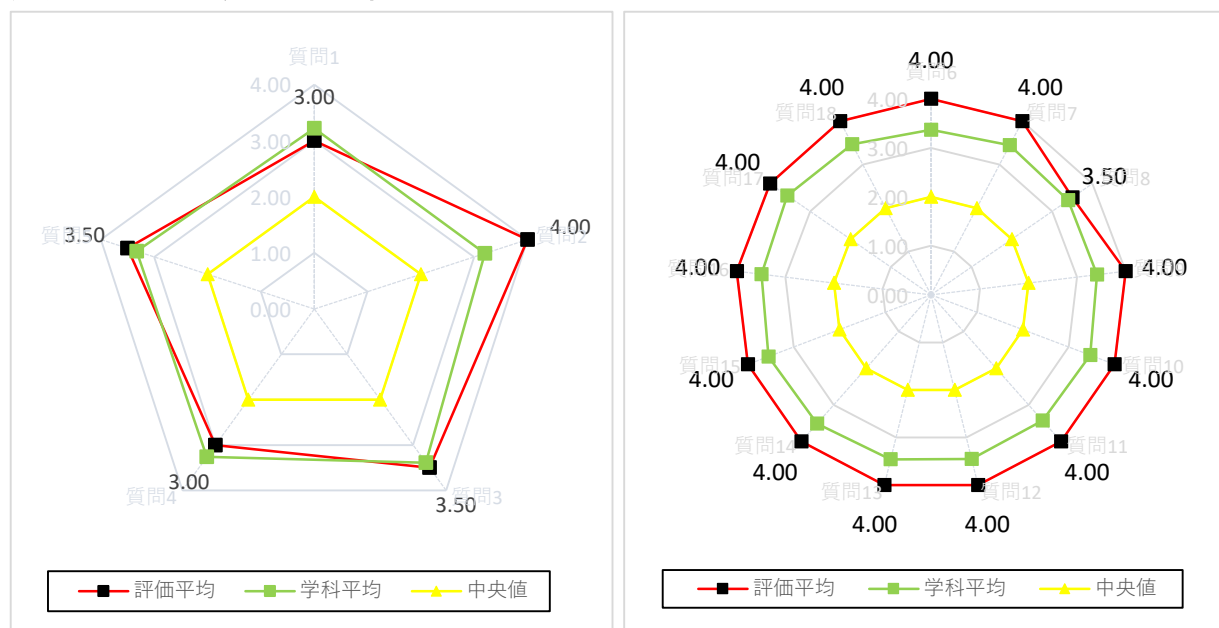
社会福祉学科の4年生が受講する必修科目である。  
 学生自身の取り組みでは「出席」「シラバスの活用」が学科平均より低かった。Web上でのシラバスをさらに詳細に記載したシラバスを作成、配布したが活用してもらえなかったことが十分ではないかった。残念である。  
 質問6～18については、いずれも平均より高い結果となった。個別の卒業研究について一人一人指導スケジュールを組みながら、3年次春休み期間も含め修学に取り組み、学生個々の納得のいく卒業研究に至ったと考える。

### （３）次年度に向けての取り組み

シラバスの活用は主体性を高める工夫として「自分の学習スケジュール」作成に取り組む。  
 卒業研究についてはこれまでの個別指導を基本に進めたい。  
 2025年度は編入学生、留学生（正規、交換含む）など多様であり、より一層、各自の目標を確認しながら指導に取り組む

| 学部     | 学科   | 担当者 | 科目名             | 履修者数 |
|--------|------|-----|-----------------|------|
| 健康福祉学部 | 社会福祉 |     | 発展ゼミナールⅢ（含卒業研究） | 7名   |

### （１）学生による授業評価結果



### （２）結果の分析と評価

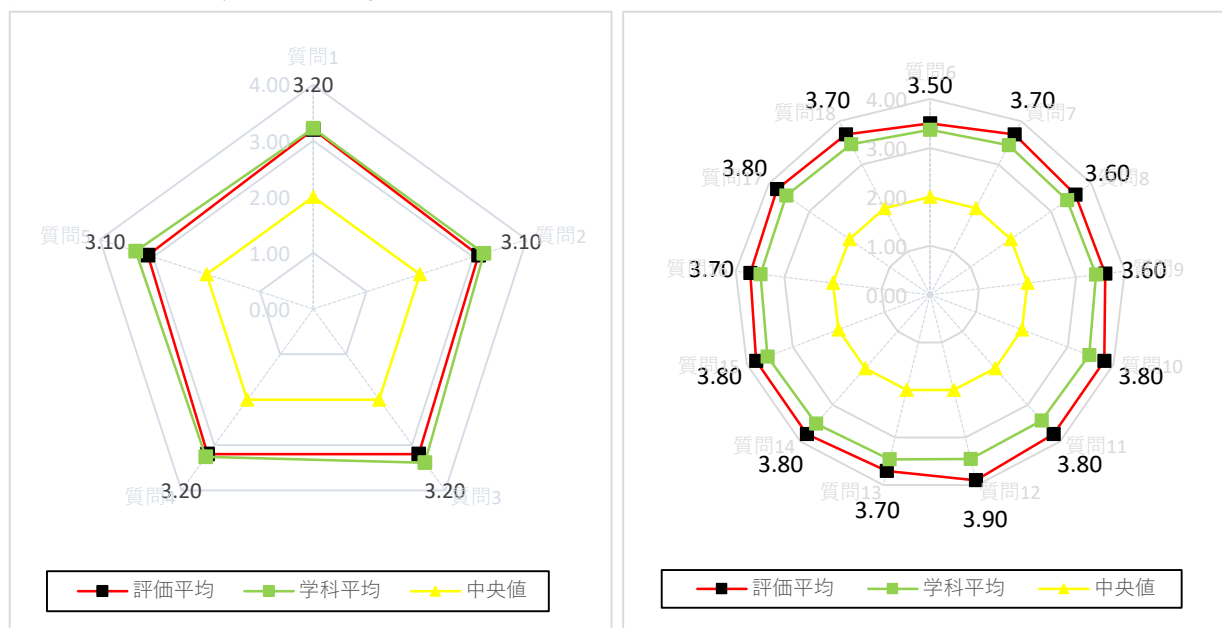
質問8について、学科平均であったことが工夫の足りなさを感じさせられた。個別に合わせた指導を常に心がけていたが、ゼミという集団での支援の仕方を考えることと、資料等の工夫を考えるべきであった。

### （３）次年度に向けての取り組み

授業については、工夫を行うように考える。個別の指導についても個人の興味に合わせた内容を考えるようにしたい。

| 学部     | 学科   | 担当者 | 科目名         | 履修者数 |
|--------|------|-----|-------------|------|
| 健康福祉学部 | 社会福祉 |     | こころとからだのしくみ | 11名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

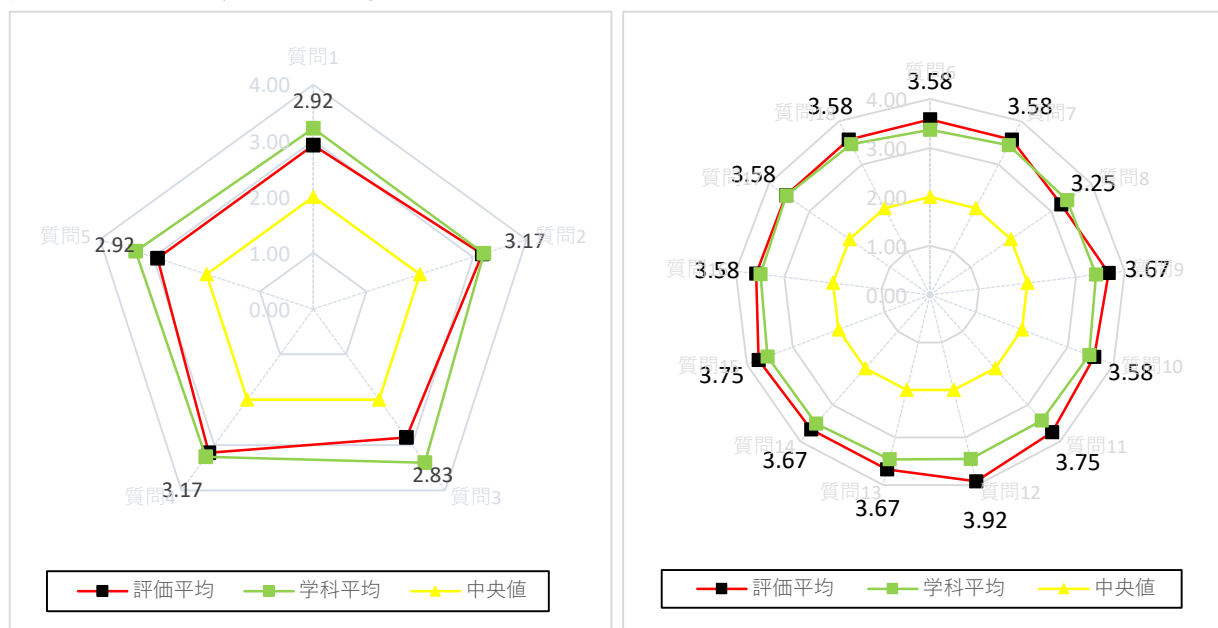
質問6以外は学科平均評価を若干上回っている。教科書に沿って補助教材を使用しながら進めたことが、全体的な高評価につながっていると考えられる。シラバス（質問6）については、授業初回に説明を行ってはいったが、十分ではなかったことが評価に示されている。

### (3) 次年度に向けての取り組み

評価の低かったシラバスについては初回だけでなく随時行っていく。授業内容については引き続きプリントなど理解を深めるための教材を工夫する。

| 学部     | 学科   | 担当者 | 科目名    | 履修者数 |
|--------|------|-----|--------|------|
| 健康福祉学部 | 社会福祉 |     | 介護概論 I | 14名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

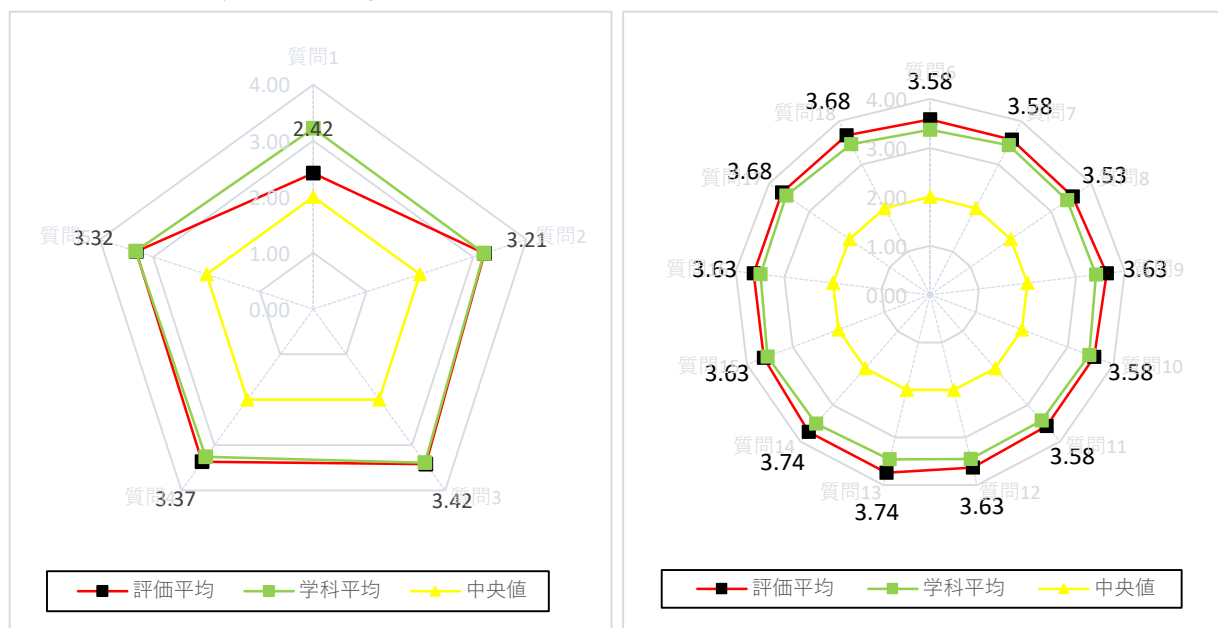
介護福祉士を目指す学生が受講する科目であり、14名が受講した。学生の取り組みである質問1～質問5は学科平均よりはやや低い結果となった。また教員の取り組みはほぼ学科平均と同様であったが、「質問8：授業は興味・関心が持てる工夫がされていたか。」が低い結果となった。問題提起や幅広い介護福祉実践の紹介、発表に心がけたが課題が残った。

### (3) 次年度に向けての取り組み

2025年度は、学生目線で身近なテーマや経験などを題材に、「問」の設定、話題の選定に取り組みたい。

| 学部     | 学科               | 担当者 | 科目名       | 履修者数 |
|--------|------------------|-----|-----------|------|
| 健康福祉学部 | 社会福祉<br>スポーツ健康福祉 |     | 高齢者の健康と運動 | 20名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

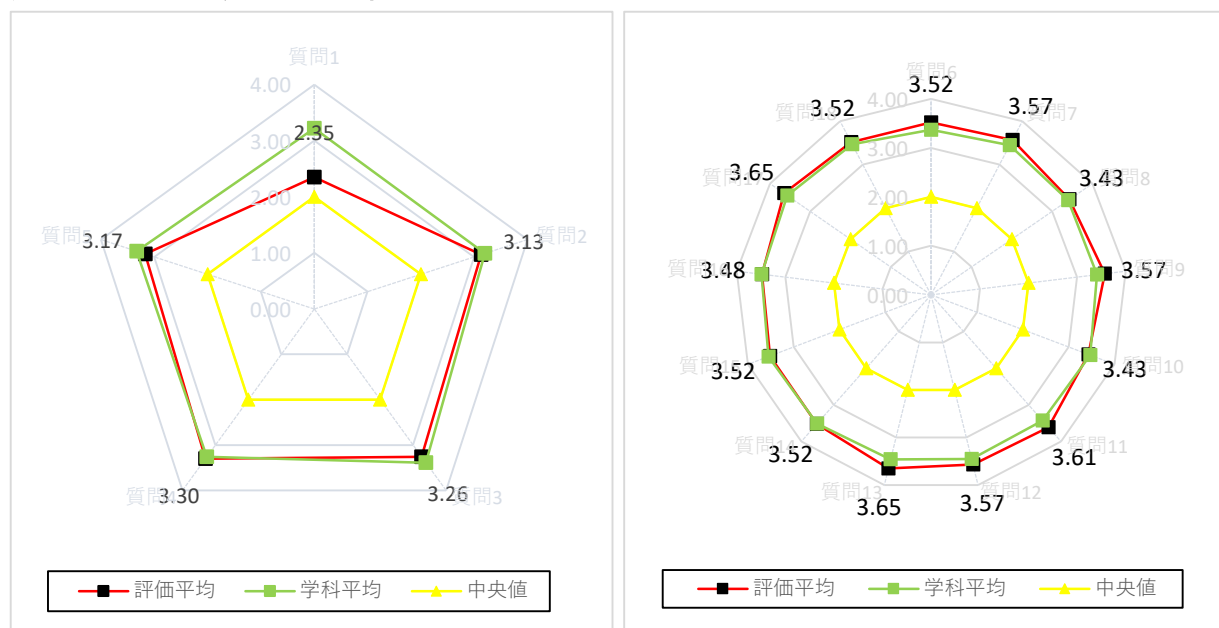
本科目は専門教育科目/学科専門科目/健康スポーツに関する科目/基礎科目(選択科目)として、3年次の後期に開講しており20名の学生が履修した。  
履修学生20名のうち19名から回答があり、学生の意欲・態度に関する質問項目1「出欠」を除き学科平均値とほぼ同程度の評価を得た。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度も授業内容の充実を図るとともに、出席率の向上につながる指導を行っていきたい。

| 学部     | 学科               | 担当者 | 科目名        | 履修者数 |
|--------|------------------|-----|------------|------|
| 健康福祉学部 | 社会福祉<br>スポーツ健康福祉 |     | リハビリテーション論 | 32名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

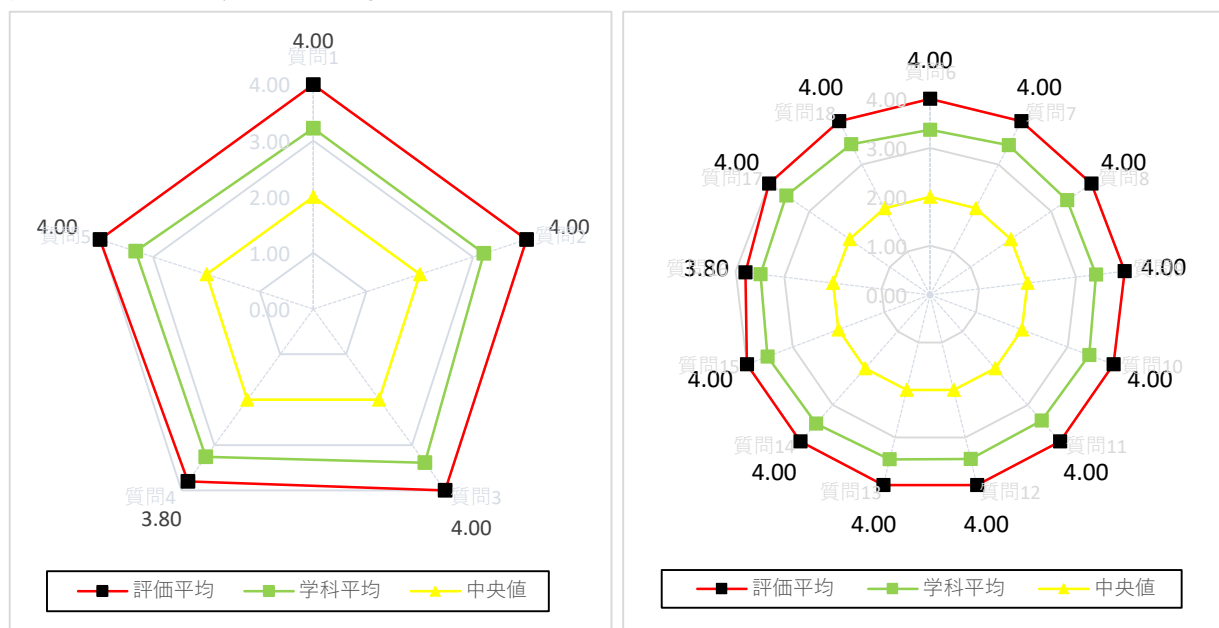
回答率74.2% (23名/31名), 失格者を除いた回答率は105% (23名/22名)であった。  
 Q. 18「総合評価」では, 「良い・やや良い」が22名 (/23名), 「やや悪い」が1名 (/23名)であった。  
 Q. 19-25 (設問設定ナシ) への回答が複数名認められた。  
 その他「やや不十分」と回答があった項目と人数は, 以下の通りであった。  
 ①シラバスの説明: 1名,  
 ②興味・関心が持てる工夫: 1名,  
 ③視聴覚教材の使用: 2名,  
 ④声の大きさ・明瞭さ: 1名,  
 ⑤質問への対応: 1名,  
 ⑥双方向授業への配慮: 1名。  
 ⑦教員の熱意: 1名

### (3) 次年度に向けての取り組み

回答率: 欠席過多による資格者を除いた回答率は105% (23名/22名)であった。本アンケートは第14, 15講での実施が計画されているため, 欠席者 (失格者) は対象にできない。  
 Q. 18「総合評価」において「やや悪い」と回答した1名については自由記述への書き込みがないため原因は不明である。  
 その他,  
 ①シラバス, 講義の進め方, 受講上の注意については, 毎年1?3回目の講義で説明している。「やや不十分」と回答した学生の回答理由は不明である。  
 ②③毎回の講義でKeynoteを使用して, 講義内容に応じた画像及び動画, 自験例を供覧している。今後も継続していきたい。  
 ④40人教室において肉声で講義を行っている。「やや不十分」との回答の理由が分からない。  
 ⑤⑥毎回の講義で質問を促すが皆無である。毎回の講義で minutes paper を使用して出欠を確認し, 質問を受け付け, 次回の講義で質問に対する回答・解説を行っている。今後も継続していきたい。  
 ⑦受講者1名から「教員の熱意」に「あまりそう思わない」との回答があったが, 根拠も改善方策も不明である。

| 学部     | 学科   | 担当者 | 科目名  | 履修者数 |
|--------|------|-----|------|------|
| 健康福祉学部 | 社会福祉 |     | 救急処置 | 7名   |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

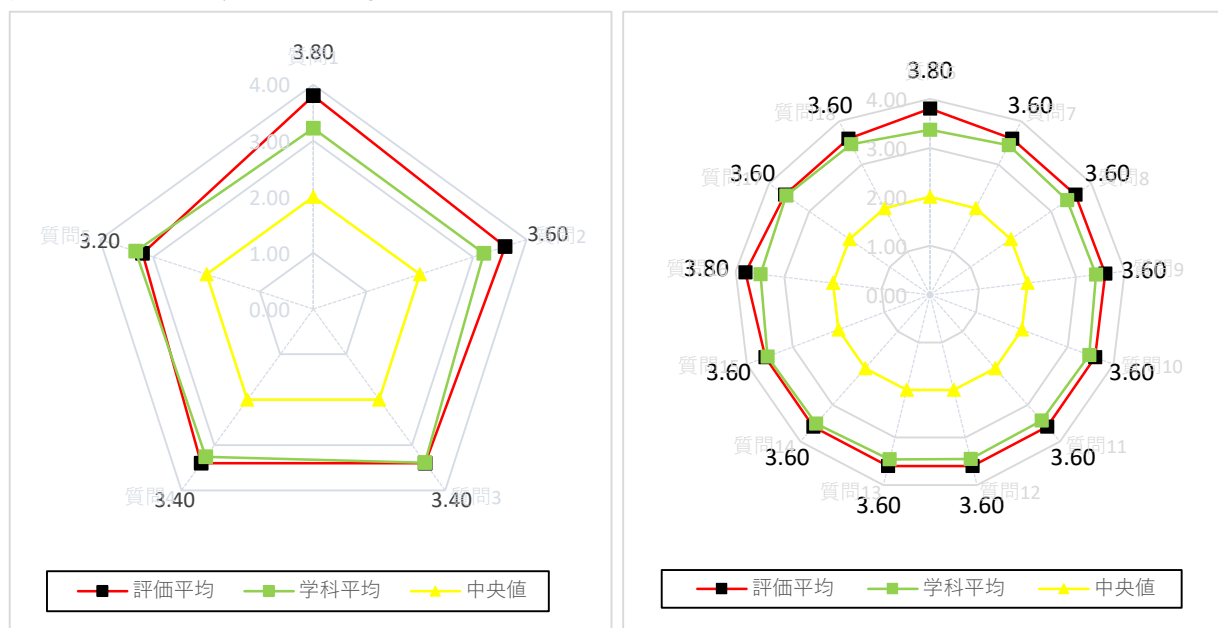
当該学科からの当初の履修者数は7名で、そのうち1名が失格となっている。この授業評価アンケートの当該学科からの回答者数は5名であった。授業は5名の教員によるオムニバス形式で、講義と実習からなる。内容は、人命に係るかなり専門性のある授業のため、正しく理解できるような授業の工夫や状況判断が求められる。今回のアンケートで学生自身に関わる内容の項目である質問1から質問5では、質問4の授業への工夫で1名の評価3があったものの、それ以外の項目すべてにおいて評価4であった。質問5の総合自己評価でも4.0の評価平均であったことから、良好な授業への取り組みであったと判断する。また質問6以降の項目でも質問16の双方向のやり取りで評価3の回答が1名あったものの、それ以外の項目すべてにおいて4.0の評価で回答が得られ、多くの項目で評価平均4.0と高い評価であった。以上の結果から当該学生においてこの授業の取り組みや進め方等が、問題もなく受け入れられた良好な状態の授業ができていると考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

複数名の教員で担当している教科のため、個々の授業の取り組みの評価が分析できないものの全体的には良好な状況であったと察する。次年度も同様なオムニバス形式での授業の進め方とため、それぞれの教員がさらにわかりやすい授業の工夫を考えて実施していくことで、履修者がさらにこの授業への興味や関心をもってもらえるものとする。そのためには教員間での情報共有や連携を次年度は深めたいと思う。

| 学部     | 学科   | 担当者 | 科目名            | 履修者数 |
|--------|------|-----|----------------|------|
| 健康福祉学部 | 社会福祉 |     | 応用生活支援技術Ⅰ（高齢者） | 7名   |

### （１）学生による授業評価結果



### （２）結果の分析と評価

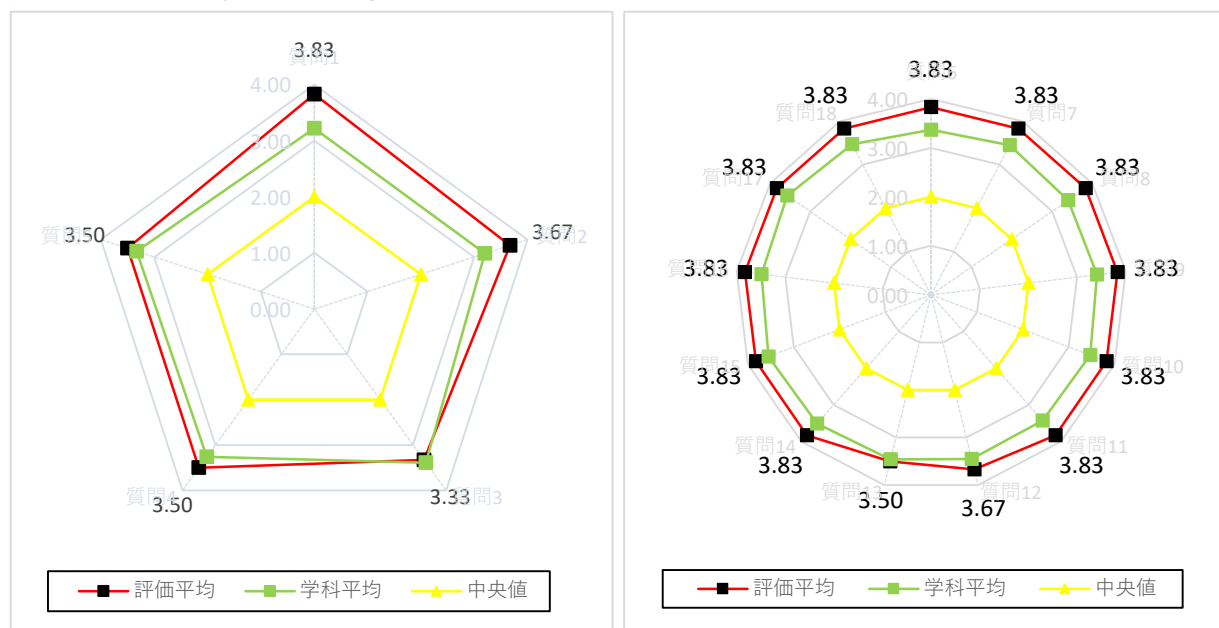
介護福祉士を目指す学生が受講する科目である。学生自身の取り組みとしては授業への出席、シラバスの活用が平均より高い結果となった。実技を含む内容であり、主体的な取り組みが求められることが反映された結果と考える。しかし、学生自身の総合評価が若干低い結果となったため、知識や技術獲得への課題があったことが要因として考えられる。教員の取り組み（質問6～18）はほぼ学科平均と同程度であったが、質問6「シラバスの説明」と質問16「双方向なやり取り」に関する得点はやや高い傾向にあった。実技演習および実技試験も含むことから毎年、WEB上でのシラバスをさらに詳しく記載した授業計画を準備しており、その影響と思われる。

### （３）次年度に向けての取り組み

詳しいシラバスの作成は引き続き行う。学生の「知識や技術獲得」への実感、自信を高めるための工夫に取り組む。例えば、既修得済みの関連科目の復習、関連、実習や国家試験で求められる力など目標を定められるよう取り組みたい。

| 学部     | 学科   | 担当者 | 科目名              | 履修者数 |
|--------|------|-----|------------------|------|
| 健康福祉学部 | 社会福祉 |     | 応用生活支援技術Ⅲ(医療ニーズ) | 6名   |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

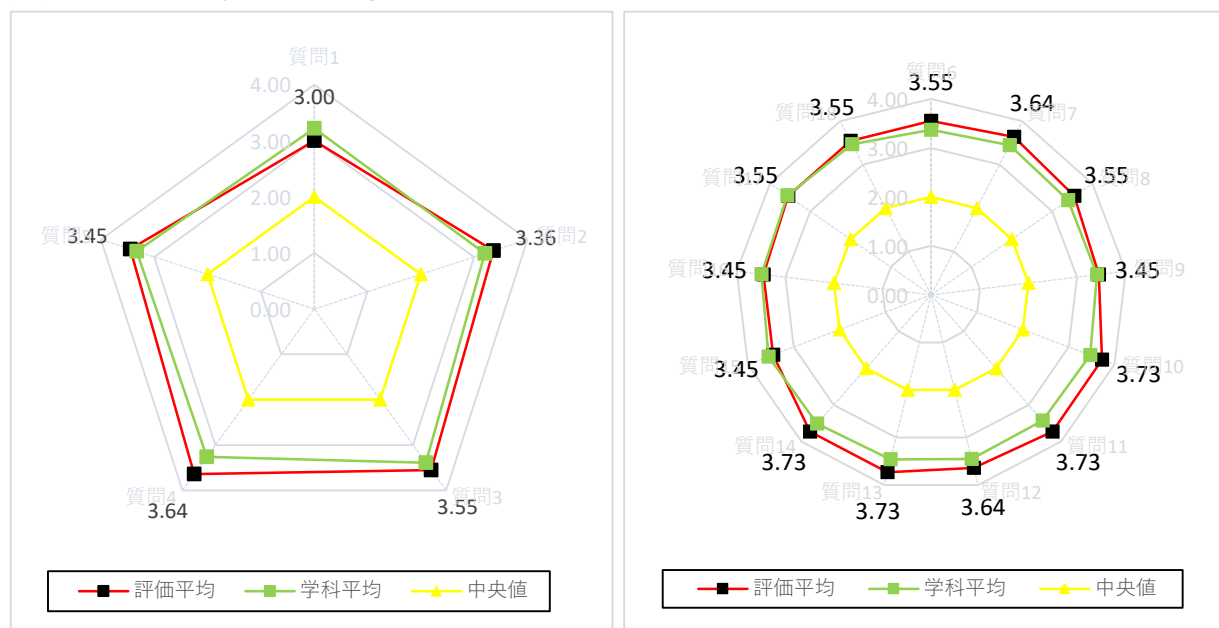
全体的に評価は「学科平均」を上回っていた。質問13「授業の進む速さ」については他項目と比較し若干低いため、改善の余地がある。

### (3) 次年度に向けての取り組み

多職種との連携・疾患の理解などについて、「事例」を用いグループワークなどで学びを深める取り組みを引き続き行っていく。双方向で質問できる授業の雰囲気をも今後心掛けていく。授業の進む速さについては、授業内で適宜確認を行いたい。

| 学部     | 学科   | 担当者 | 科目名      | 履修者数 |
|--------|------|-----|----------|------|
| 健康福祉学部 | 社会福祉 |     | 社会福祉特講 I | 41名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

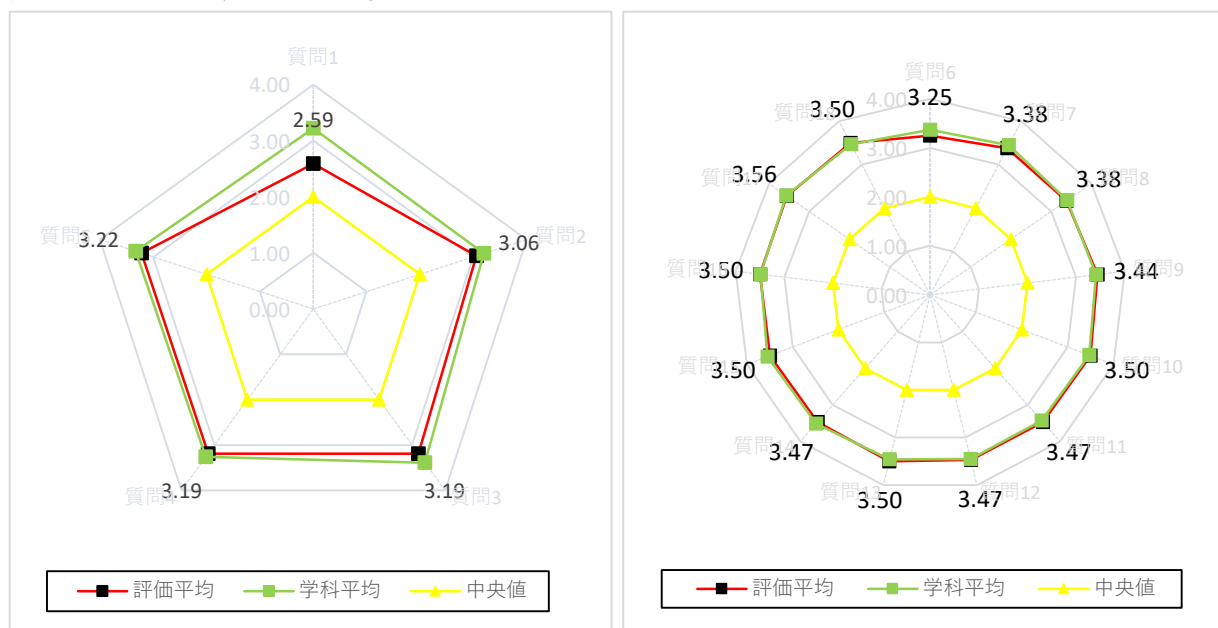
令和6年度特に対して、学生からの評価については、ある一定の評価を得たと考える。  
 質問10～14に対しての学科平均値より高いこと。何より、質問4の学生自身が自分で理解するために何か工夫をしたという点が学科平均より高いことが物語っていると考える。  
 今年度は、学生さん自身が努力できる体制を作ることが出来たため、国家試験の合格率も、全国平均に近づいたのではないかと捉えている。  
 各自の努力が実るように講義が行えることが何よりだと考える。

### (3) 次年度に向けての取り組み

問15～16に関してが平均値より低く。より先生方に努力をしていただくことを行いたい。  
 複数の教員で講義を行うので、それぞれの特性や個性があり、そのことに対応していくことにより、より満足度があがるのではないかと捉えている。  
 受験対策としての、特講については、今後も継続を考慮しており、基本的な部分は変えず、更に学生の満足があがるような個別対応を考えていきたい。

| 学部     | 学科   | 担当者 | 科目名     | 履修者数 |
|--------|------|-----|---------|------|
| 健康福祉学部 | 社会福祉 |     | 社会福祉特講Ⅱ | 41名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

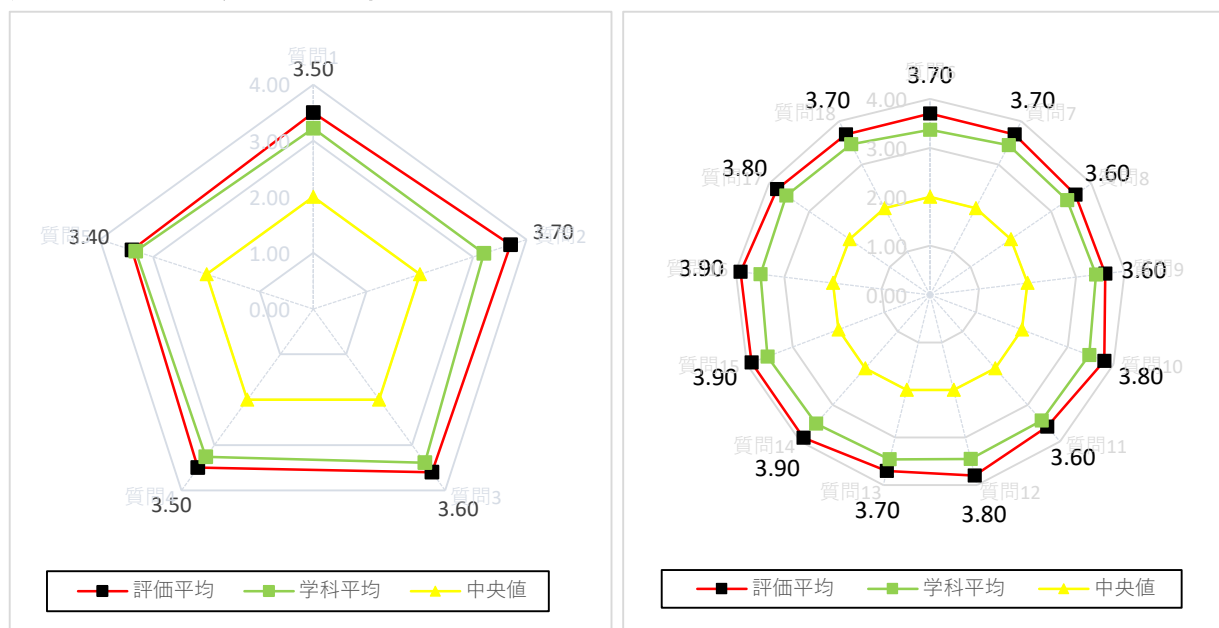
後期の授業については、①講義②穴埋めテスト③模試と 受験に沿った指導を複数教員で行った。後半1月については、各自のペースで行えるように、質問に特化した指導に切り替えたが、その点が、前期のIよりも満足度が落ちたのではないかと捉えている。ほぼ学年平均の点数であるので、今後も更に学生の満足する教育を行っていきたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

合格率については、当初厳しい予測をしていたが、結果は努力していた学生の多くが合格という事になり、その評価が出たのではないだろうか。来年度も、学生自身が学び、教育効果が出る内容を考えていきたい。

| 学部     | 学科   | 担当者 | 科目名   | 履修者数 |
|--------|------|-----|-------|------|
| 健康福祉学部 | 社会福祉 |     | 介護実習Ⅱ | 12名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

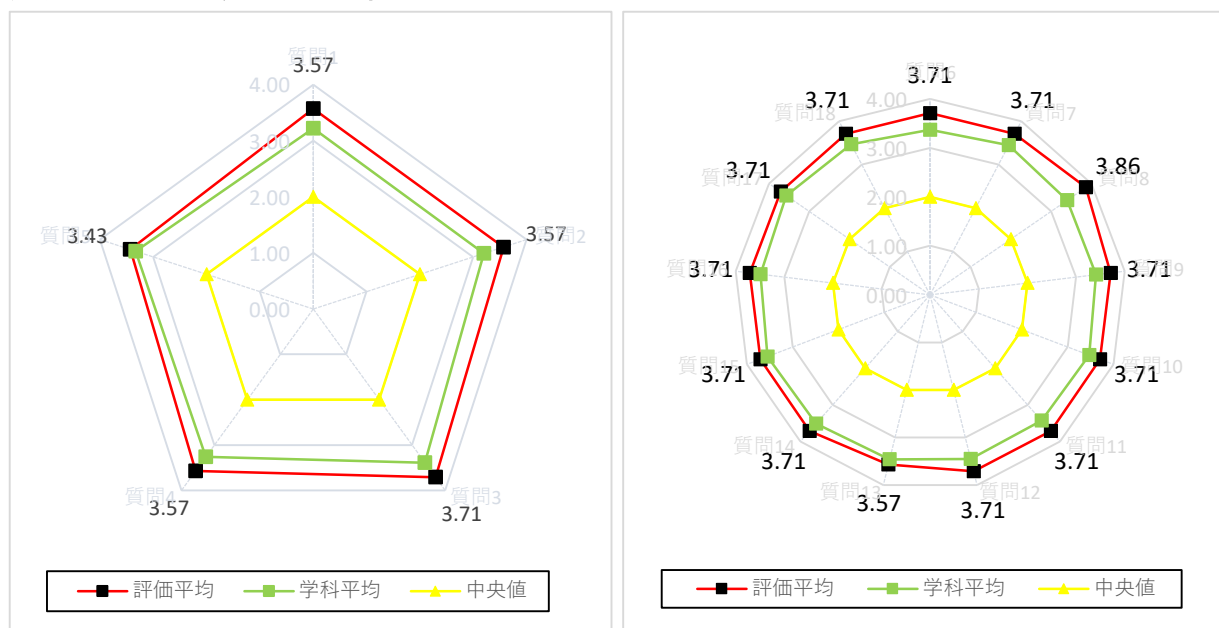
介護福祉士を目指す2年生が受講する科目であり、指定施設で10日間の実習を行う授業である。10日間にうち、2回は実習中指導を行う（帰校日指導と実習地巡回訪問指導）。学生の取り組み（質問1～質問5）、教員の取り組み（質問6～18）いずれも学科の平均より高く、主体的に取り組み、学びのプロセスへの満足感も高かったと考える。受け入れ施設の実習計画および指導の成果と考える。

### (3) 次年度に向けての取り組み

引き続き、主体的に、充実した実習を行うことができるよう、実習施設との連絡調整、学生への実習準備の指導を行っていきたい。

| 学部     | 学科   | 担当者 | 科目名   | 履修者数 |
|--------|------|-----|-------|------|
| 健康福祉学部 | 社会福祉 |     | 介護実習Ⅳ | 7名   |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

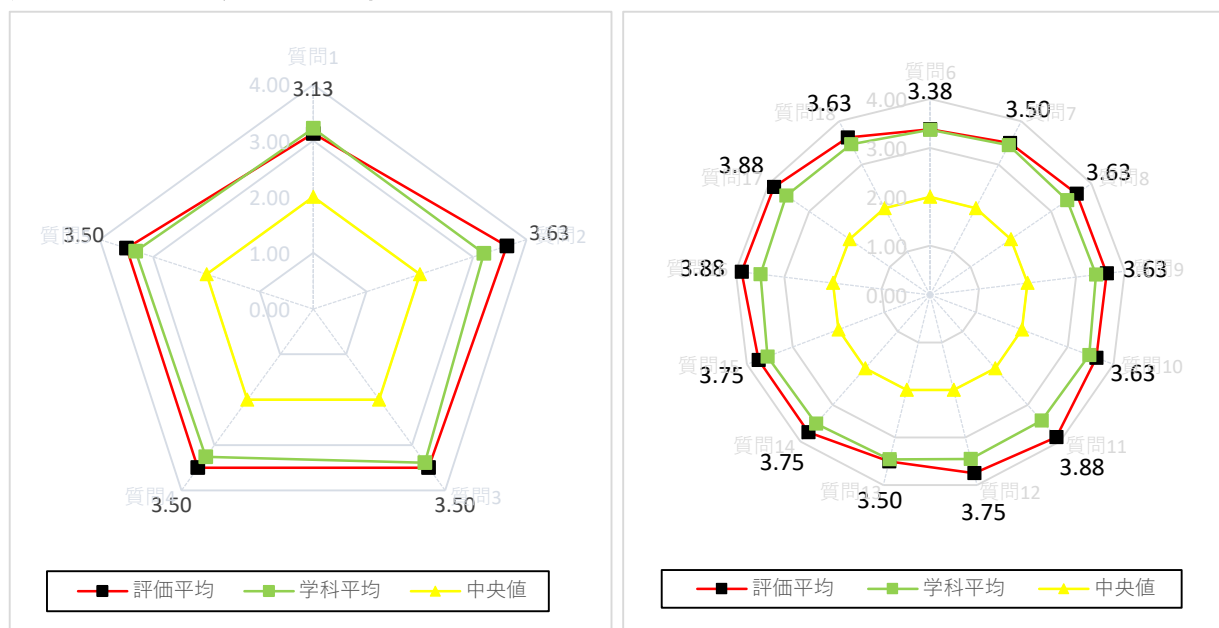
介護福祉士を目指す3年生が受講する科目であり、指定施設で10日間の実習を行う授業である。10日間にうち、2回は実習中指導を行う（帰校日指導と実習地巡回訪問指導）。学生の取り組み（質問1～質問5）、教員の取り組み（質問6～18）いずれも学科の平均より高く、主体的に取り組み、学びのプロセスへの満足感も高かったと考える。受け入れ施設の実習計画および指導の成果と考える。

### (3) 次年度に向けての取り組み

引き続き、主体的に、充実した実習を行うことができるよう、実習施設との連絡調整、学生への実習準備の指導を行っていきたい。

| 学部     | 学科   | 担当者 | 科目名    | 履修者数 |
|--------|------|-----|--------|------|
| 健康福祉学部 | 社会福祉 |     | 医療的ケアⅡ | 9名   |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

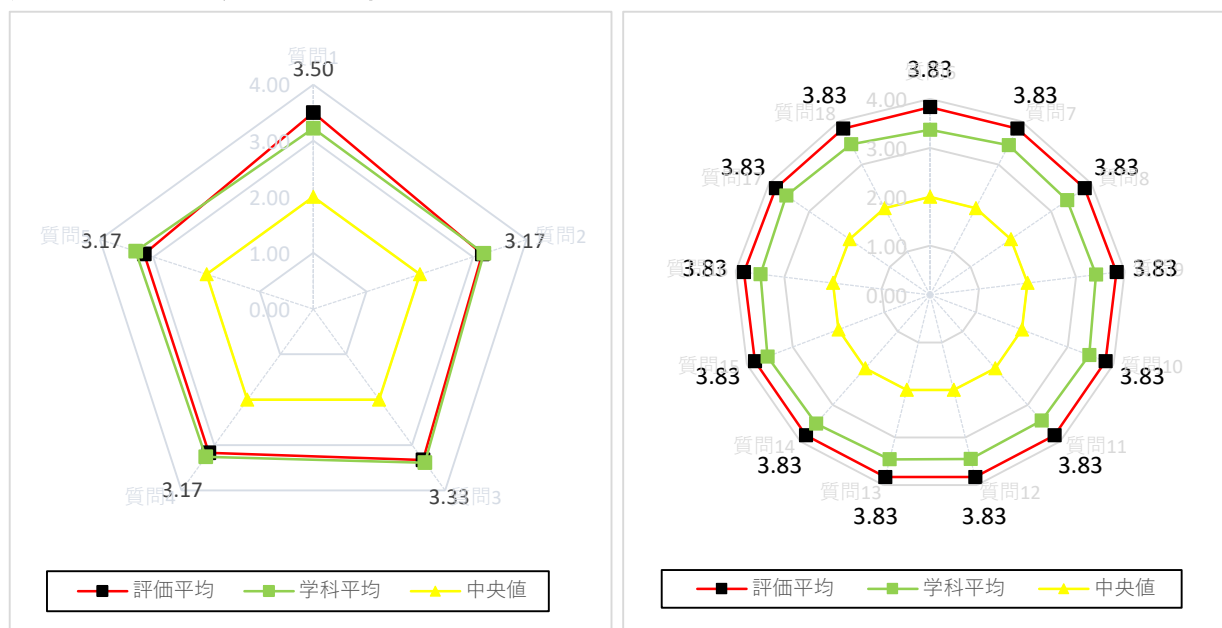
質問6の「シラバスについての説明」に関する評価が低かった。学生の習熟度に応じて講義内容が流動的な部分もあり、説明不足は否めない状況である。他項目については学科平均を若干上回っていたが、少人数クラスでもあり双方向のやり取りが可能であることが全体の良い評価につながっていると考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

本科目は「医療的ケア演習」と連動しているため、演習（技術）のイメージがつくような工夫がいっそう必要であるとする。また、医療的ケアⅠ（2年後期科目）で学んだ知識がフルに活用できるようなしかけ（確認プリント、小テストなど）を検討する。

| 学部     | 学科   | 担当者 | 科目名     | 履修者数 |
|--------|------|-----|---------|------|
| 健康福祉学部 | 社会福祉 |     | 医療的ケア演習 | 7名   |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

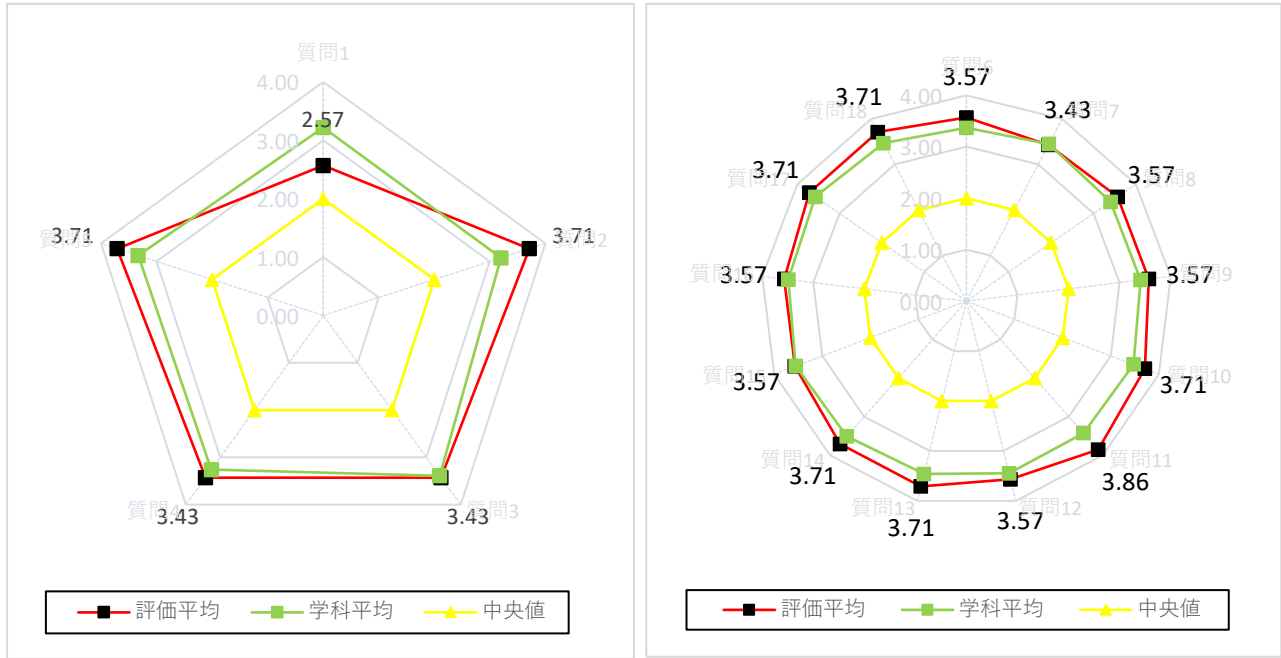
全項目とも評価が学科平均を上回っていた。技術演習であるため、目標や合格レベルを常に示していることが高評価につながっていると考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

集中演習であるため、モチベーションの維持が重要である。引き続き授業計画と到達点を示しながら、習熟度を高めるための適切な指導を行う。

| 学部     | 学科       | 担当者 | 科目名              | 履修者数 |
|--------|----------|-----|------------------|------|
| 健康福祉学部 | スポーツ健康福祉 |     | スポーツ健康福祉学演習<br>I | 8名   |

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

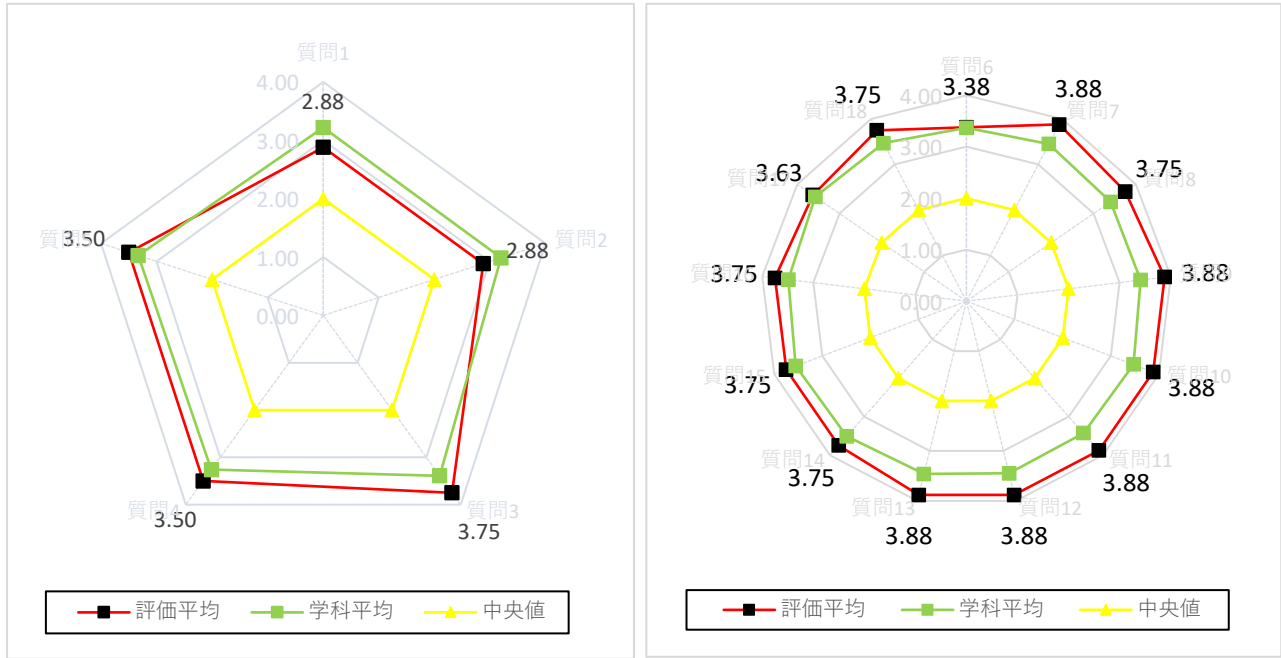
履修者8のうち7名からの回答であった。評価内容では学生自身に関わる質問1の授業出席について数名の履修者が評価2または評価1で評価平均が2.57と低い値であったものの、その他の項目では評価3以上で質問5の総合自己評価では3.71と高い評価であった。また質問6以降の項目では1項目以外はすべて評価3以上で、良好な授業の取り組みであったと判断する。ただ、質問16の双方のやり取りに関して評価2が1名回答していることから、この点は反省するところである。質問18の総合評価では3.71と高い評価をえたことは良かったと評価する。

(3) 次年度に向けての取り組み

この授業は次年度担当しないため改善の取り組みはできないものの、今回の授業評価での反省点を他の授業で活かしたいと考える。

| 学部     | 学科       | 担当者 | 科目名                 | 履修者数 |
|--------|----------|-----|---------------------|------|
| 健康福祉学部 | スポーツ健康福祉 |     | スポーツ健康福祉学演習Ⅱ（含卒業研究） | 9名   |

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

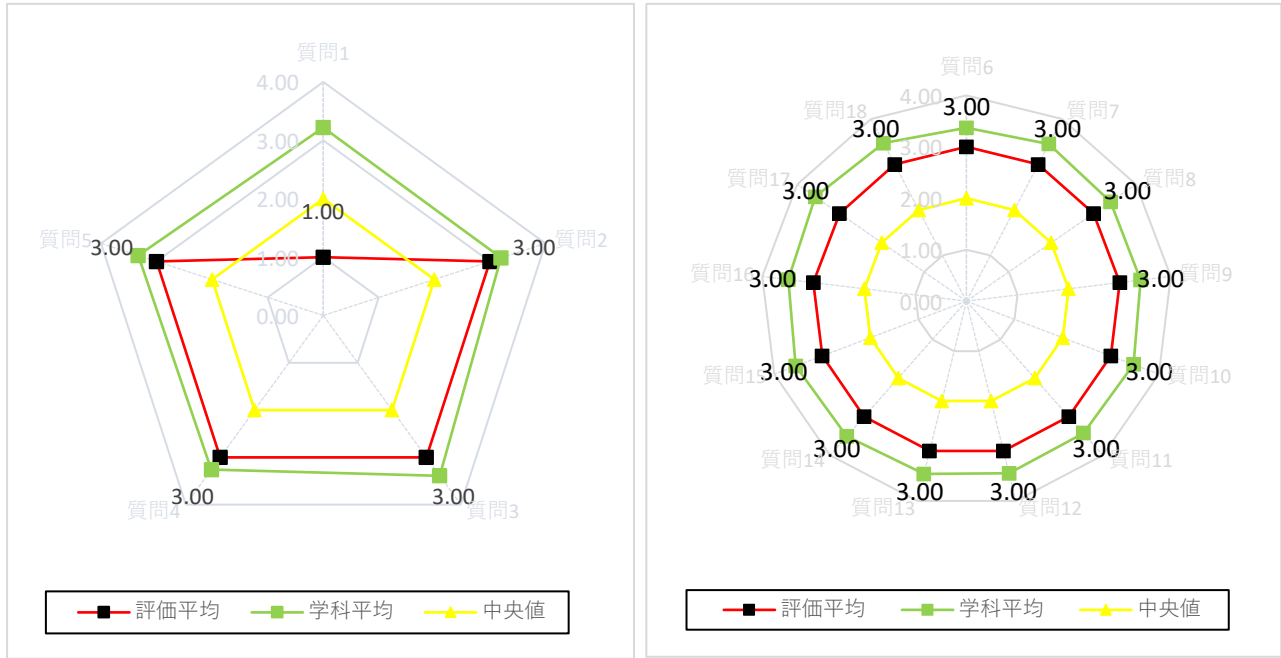
本科目は専門教育科目/学科専門科目/ゼミナール(必修科目)として、4年次に通年で開講しており、私が担当するゼミ生9名が履修した。  
履修学生9名のうち8名から回答があり、一部の質問項目を除いて学科平均を上回る評価を得た。一方、学生の意欲・態度に関する質問項目2「シラバスの活用」および教員に関する質問項目6「シラバスの説明」については、学科平均をやや下回る評価となった。

（３）次年度に向けての取り組み

今年度の授業評価で得られた結果を受けて、シラバスの活用をより意識して取り組みたい。

| 学部     | 学科       | 担当者 | 科目名                 | 履修者数 |
|--------|----------|-----|---------------------|------|
| 健康福祉学部 | スポーツ健康福祉 |     | スポーツ健康福祉学演習Ⅱ（含卒業研究） | 6名   |

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

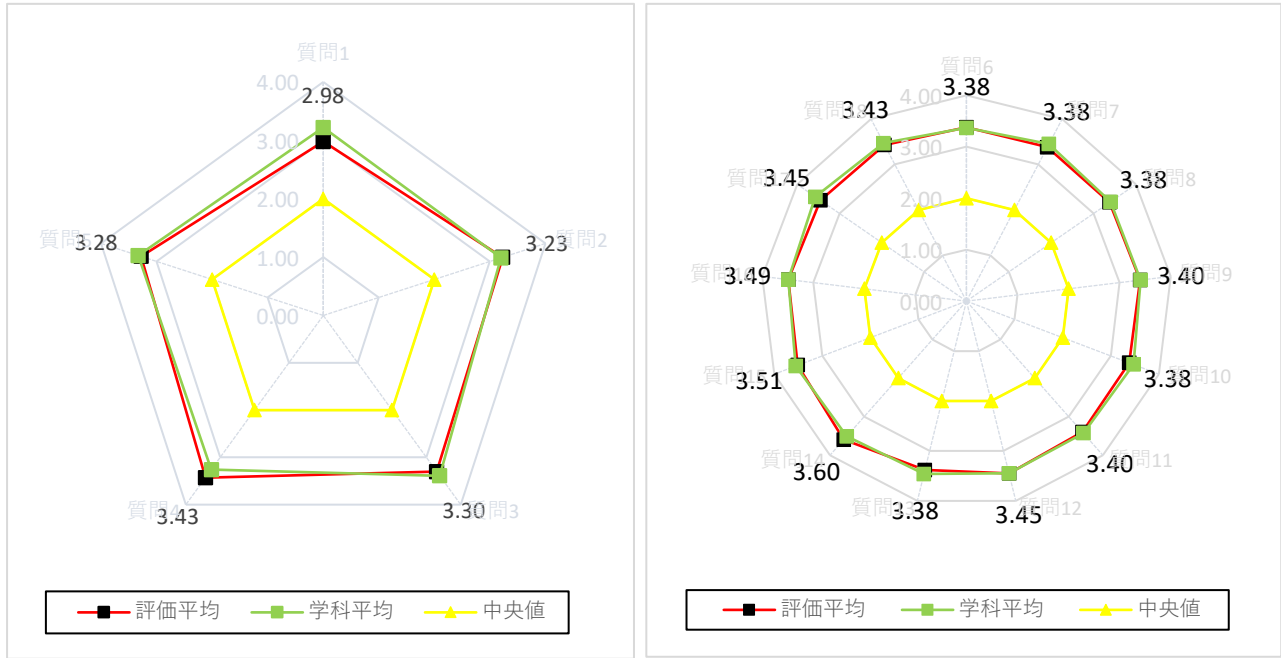
履修者6名であったものの1名からの回答であったため授業評価の分析には至らないが、質問1の出席状況以外の項目すべてが評価3であったことでその学生にとってはまあま良好な授業であったと判断する。授業内容としては卒論の作成および発表の取り組みで、個別指導の時間をできるだけ多く取れるよう調整して対応したつもりである。今回の回答した学生の授業評価を今後も活かして、授業改善に取り組みたいと考える。

（３）次年度に向けての取り組み

4年間の集大成ともなる卒論作成の授業であることから自宅等で積極的しかも計画的に取り組むよう指導したが、なかなか難しい。次年度もできるだけ双方向的やり取りを行いながら、有意義な授業となるよう努力したい。

| 学部     | 学科       | 担当者 | 科目名   | 履修者数 |
|--------|----------|-----|-------|------|
| 健康福祉学部 | スポーツ健康福祉 |     | 機能解剖学 | 52名  |

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

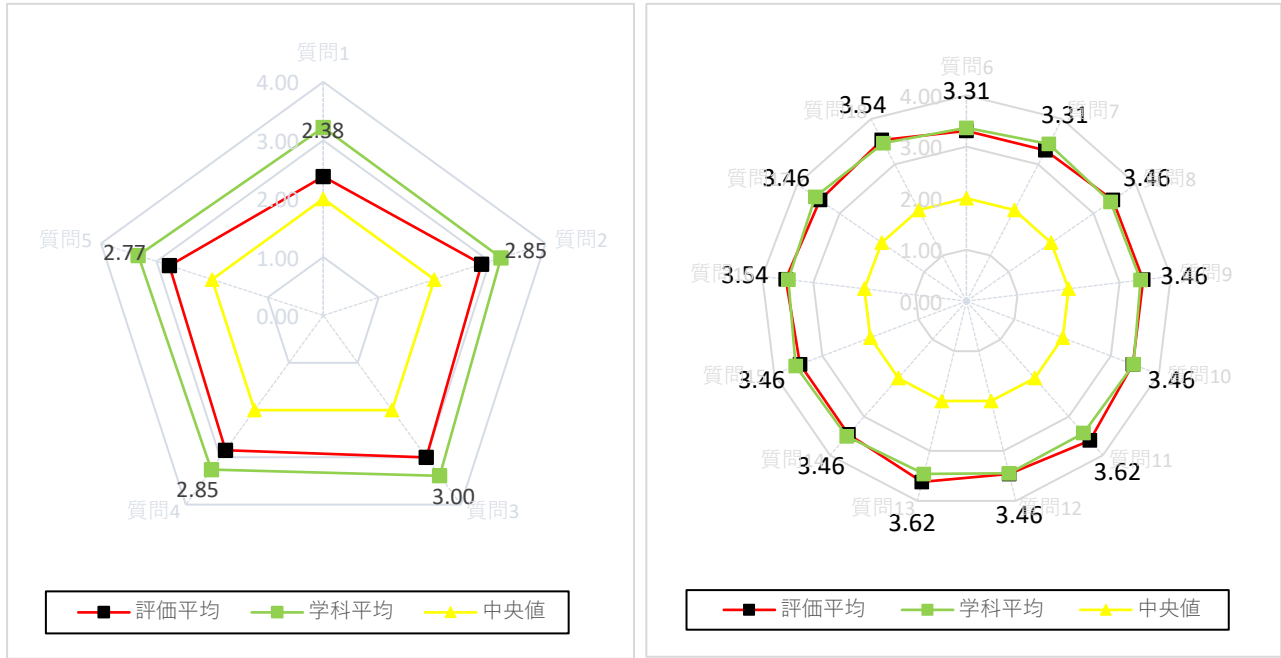
本科目は専門教育科目/学科専門科目/健康スポーツに関する科目/基礎科目(選択科目)として、1年次の後期に開講しており52名の学生が履修した。  
 履修学生52名のうち47名から回答があり、ほぼすべての質問項目において学科平均値と同程度の評価を得た。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生の意欲を引き出す働きかけを継続していきたいと考える。

| 学部     | 学科       | 担当者 | 科目名       | 履修者数 |
|--------|----------|-----|-----------|------|
| 健康福祉学部 | スポーツ健康福祉 |     | トレーニング学特講 | 13名  |

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

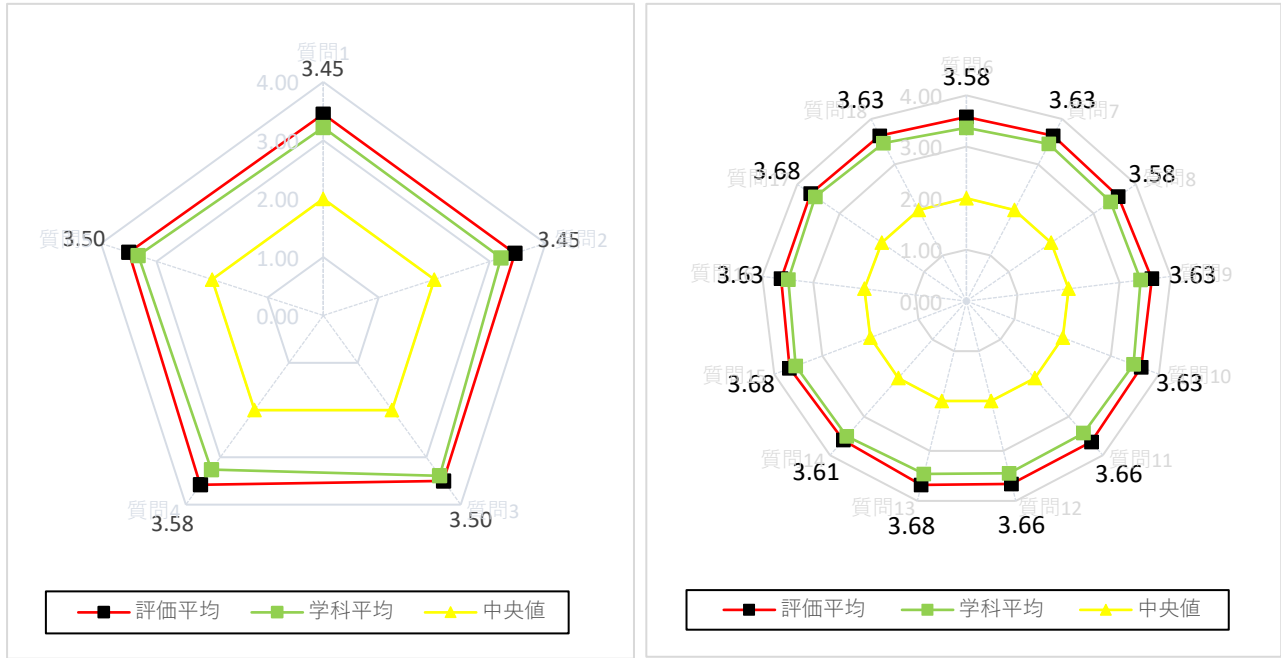
本科目は専門教育科目/学科専門科目/健康スポーツに関する科目/基礎科目（選択科目）として、3年次の後期に開講しており13名の学生が履修した。  
履修学生13名のうち全員から回答があり、学生の意欲・態度に関する質問項目については学科平均を下回り、教員に関する質問項目は学科平均値とほぼ同程度の評価を得た。

（３）次年度に向けての取り組み

本講義はスポーツトレーナー資格の受験対策講座として開講しているものの、卒業単位を満たす目的で受講する学生も一定数含まれ、当該学生の欠席等も多かった。資格取得をめざす学生のモチベーション維持が難しいと感じたことから、次年度以降の開講方法について再度検討したい。

| 学部     | 学科       | 担当者 | 科目名           | 履修者数 |
|--------|----------|-----|---------------|------|
| 健康福祉学部 | スポーツ健康福祉 |     | 救急処置（学校安全を含む） | 51名  |

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

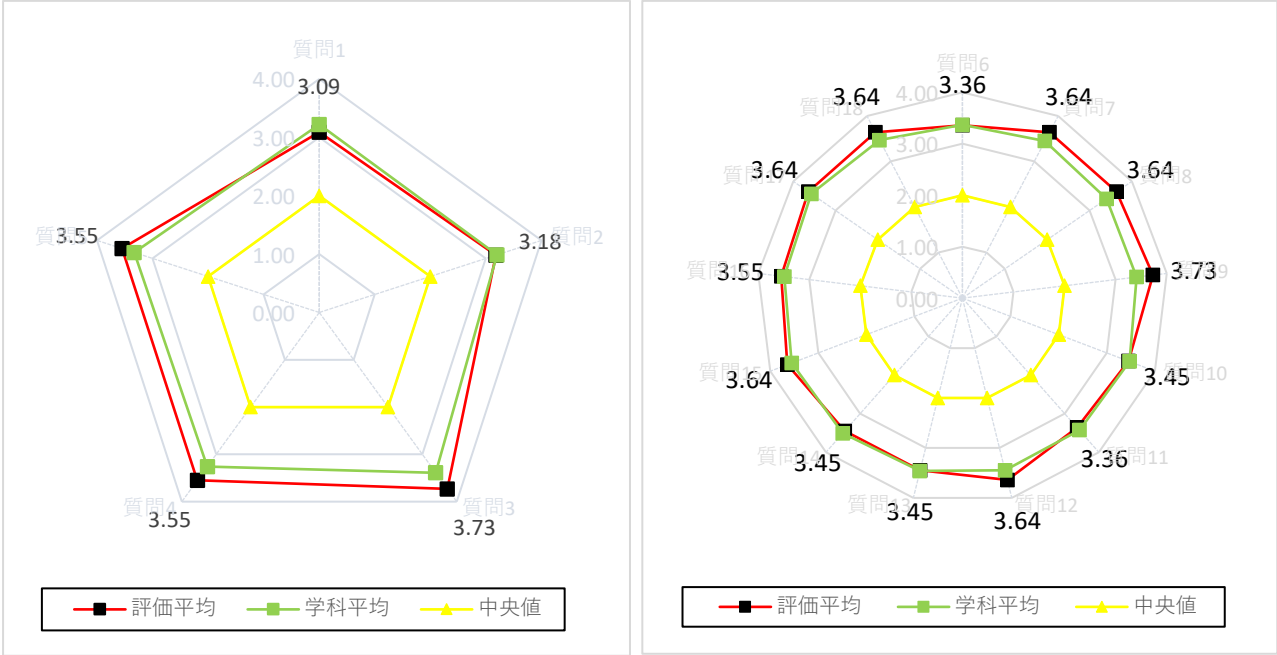
この授業の当初に履修者数は51名で、そのうち6名が失格となっている。この授業評価アンケートの回答者数は38名である。授業は5名の教員によるオムニバス形式で、講義と実習からなる。内容は、人命に係るかなり専門性のある授業のため、正しく理解できるような授業の工夫や状況判断が求められる。今回のアンケートで学生自身に関わる内容の項目である質問1から質問5では、各項目で評価4と回答した者が多いものの評価1や評価2の回答者も数名いる。特に質問1の授業出席については評価2の回答者が8名と多かった。しかし全体的には評価平均がすべての項目で3.45以上あり、質問5の総合自己評価では3.5の評価であったことから、ある程度良好な授業への取り組みであったと判断する。また、質問6以降のすべての項目でも3.5以上の評価平均で、質問18の総合評価で3.63と高い評価であった。以上の結果から当該学生においてこの授業の取り組みや進め方等が、問題もなく受け入れられた良好な状態の授業ができていると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

複数名の教員で担当している教科のため、個々の授業の取り組みの評価が分析できないものの全体的には良好な状況であったと察する。次年度も同様なオムニバス形式での授業の進め方とたるため、それぞれの教員がさらにわかりやすい授業の工夫を考えて実施していくことで、履修者がさらにこの授業への興味や関心をもってもらえるものとする。そのためにも教員間での情報共有や連携を次年度は深めたいと思う。

| 学部     | 学科       | 担当者 | 科目名            | 履修者数 |
|--------|----------|-----|----------------|------|
| 健康福祉学部 | スポーツ健康福祉 |     | 運動方法学演習 9（ダンス） | 29名  |

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

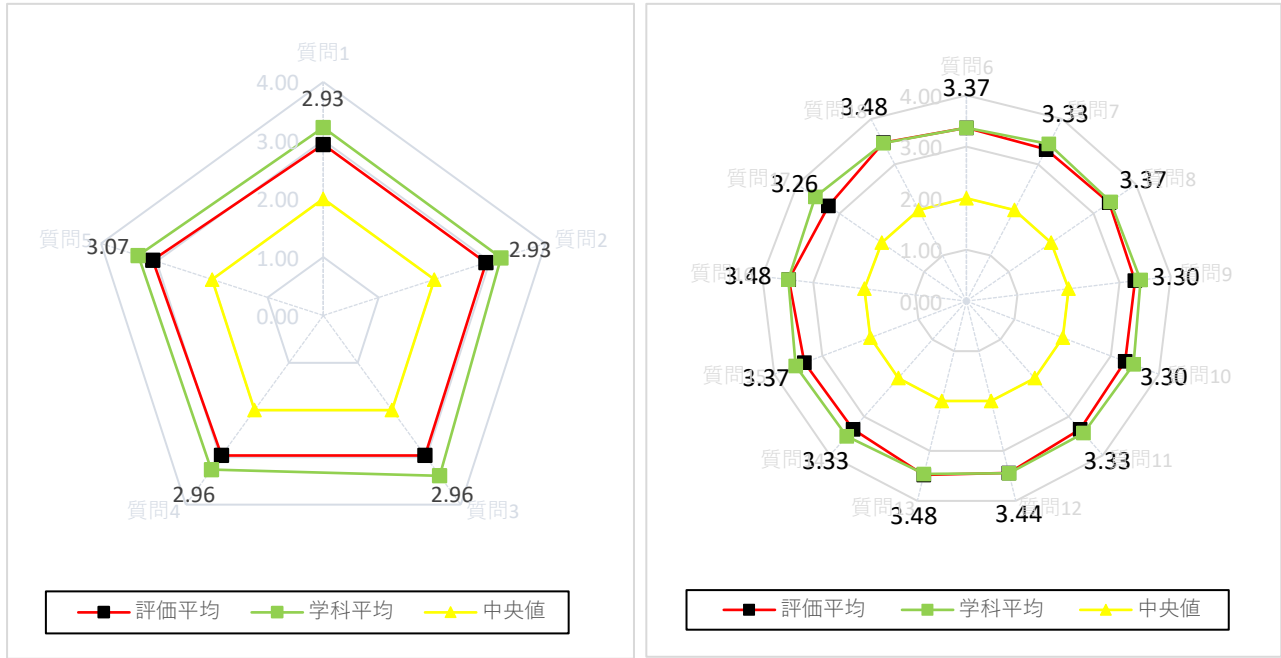
シラバスがあまり活用されていない。  
授業には積極的に取り組んでいる。

（３）次年度に向けての取り組み

授業全体像を明確にして、学生がより積極的に参加してダンスを楽しめるようにする。

| 学部     | 学科       | 担当者 | 科目名  | 履修者数 |
|--------|----------|-----|------|------|
| 健康福祉学部 | スポーツ健康福祉 |     | 測定評価 | 33名  |

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

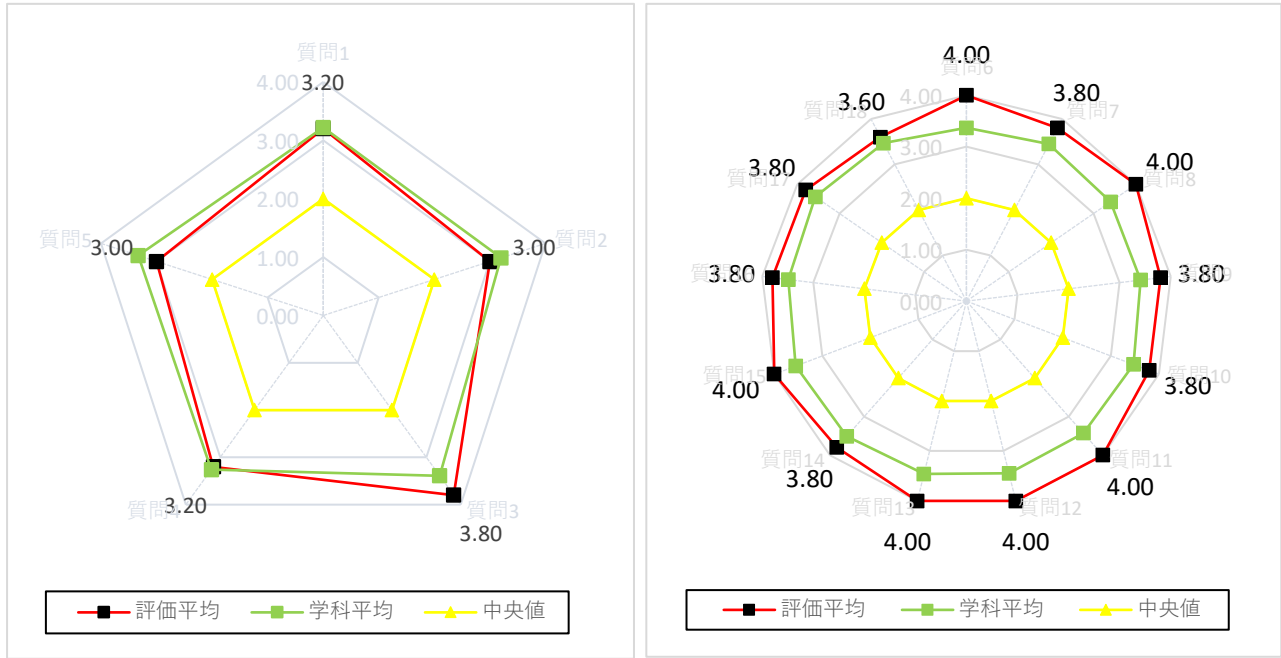
この授業の当初の履修登録者数が33名であったが、出席不足等で4名が失格である。結果29名のうち27名からのアンケートの回答結果である。まず、学生自身に関わる質問項目（質問1～質問5）では、評価3が多いものの評価1や評価2の回答をした学生も各項目数名程度いることで評価平均が2.9程度になっている。ただ、質問5の総合自己評価では3.07となっていることから、やや良い程度の授業への取り組みであったと判断する。質問6以降の項目では、評価平均がすべての項目で3.0以上あり、質問18の総合評価では3.48と良好な評価を得たものとする。全体的には評価4を回答した学生が多いが、すべての項目で評価1の回答者も数名いることから、現状の授業の取り組みに満足せず常に分かりやすい授業や学生との双方向とのやり取り等の授業改善に取り組むことが大切と感じた。

(3) 次年度に向けての取り組み

この授業では、講義だけでなく測定等の演習授業を取り入れ、実践的な授業体験とその解説等を通してより理解しやすい授業となるよう取り組んできた。次年度も同様に興味や関心がもてる授業内容を展開しつつ、学生からの授業評価で評価2や評価1の回答数があった項目を意識しながら、継続的な授業の改善に努めたい。

| 学部     | 学科       | 担当者 | 科目名          | 履修者数 |
|--------|----------|-----|--------------|------|
| 健康福祉学部 | スポーツ健康福祉 |     | 地域スポーツ実践演習 I | 7名   |

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

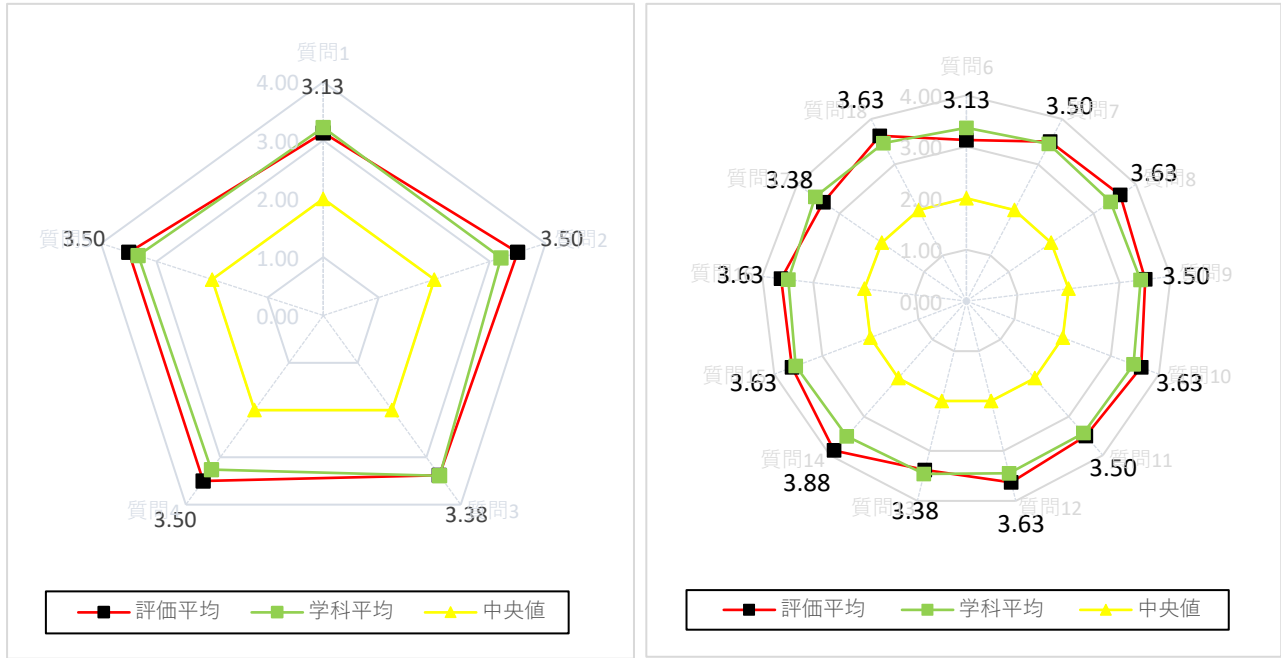
履修者6名のうち5名より回答を得た。この授業は学外での実践的実習で、そのための準備や振り返りをゼミ単位で行う。3年生の指示に従ってそれぞれの活動の対象者に対して、自分の役割と全体の状況を判断して取り組む。今回のアンケートで学生自身に関わる項目については質問1の出席状況に評価1を付けた者が1名いるが、その他の質問に対してはほぼ評価3以上で、質問5の総合自己評価は3.0とある程度良好であったと判断する。また、質問6以降ではすべての質問項目で評価4または3で、質問18の総合評価では3.6と高い評価を得た。

（３）次年度に向けての取り組み

次年度はこの教科の担当から外れるため改善等の取り組みができないが、これまでの授業の取り組みの経験から他ゼミの活動の際に、すこしでも支援、協力できるようにしたい。

| 学部     | 学科       | 担当者 | 科目名         | 履修者数 |
|--------|----------|-----|-------------|------|
| 健康福祉学部 | スポーツ健康福祉 |     | 地域スポーツ実践演習Ⅱ | 8名   |

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

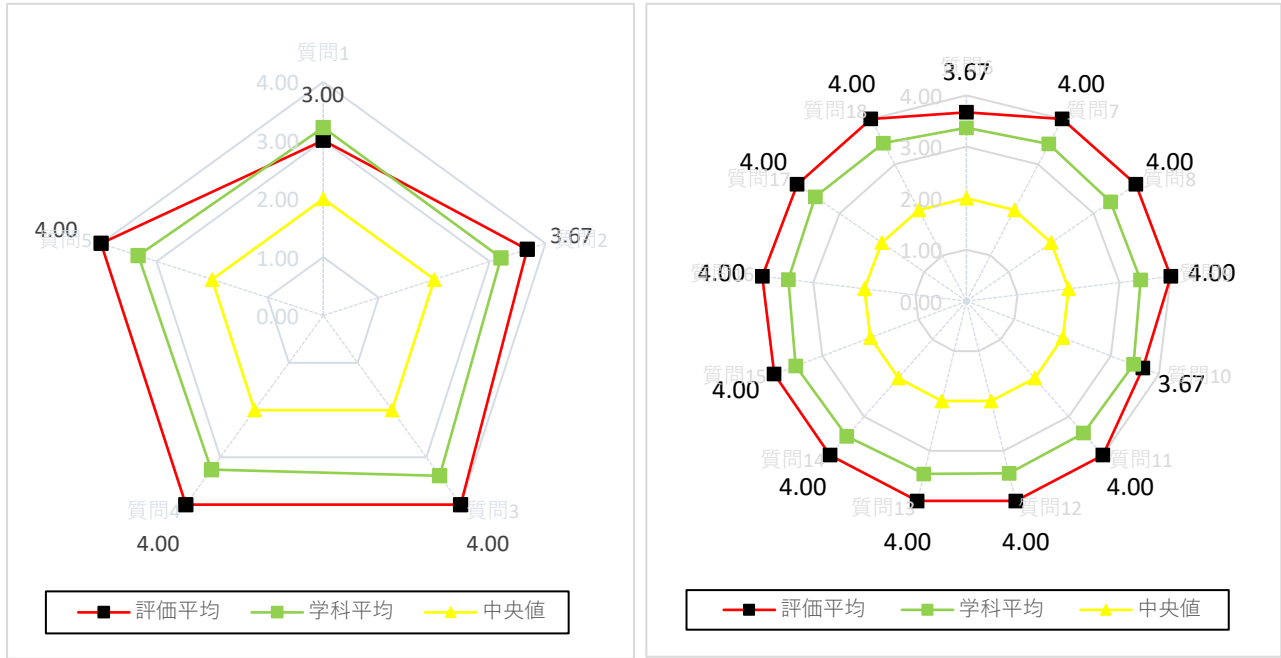
履修者全員（8名）からの回答を得た。質問1から質問5までの学生自身の授業評価では質問1と質問3に評価1や評価2が各1名の回答があったものの、それ以外の項目では評価4または評価3の評価であった。質問5の総合自己評価では3.5と高い評価であったことから、良好な授業の取り組みであったと判断する。質問6から質問18の項目に対しては3項目に評価2や評価1があったものの、その他の質問項目では評価4や評価3であった。質問6のシラバス説明では評価平均が3.13と他の質問項目に比べて低い評価であった。しかし質問18の総合評価で3.63と望ましい評価を得たことで、まずまずの授業の取り組みであったと判断する。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度はこの授業を担当しないため授業改善の取り組みはできないものの、この授業評価のアンケート内容を他の授業の取り組みに活かしたい。

| 学部     | 学科       | 担当者 | 科目名         | 履修者数 |
|--------|----------|-----|-------------|------|
| 健康福祉学部 | スポーツ健康福祉 |     | 健康産業施設等現場実習 | 3名   |

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

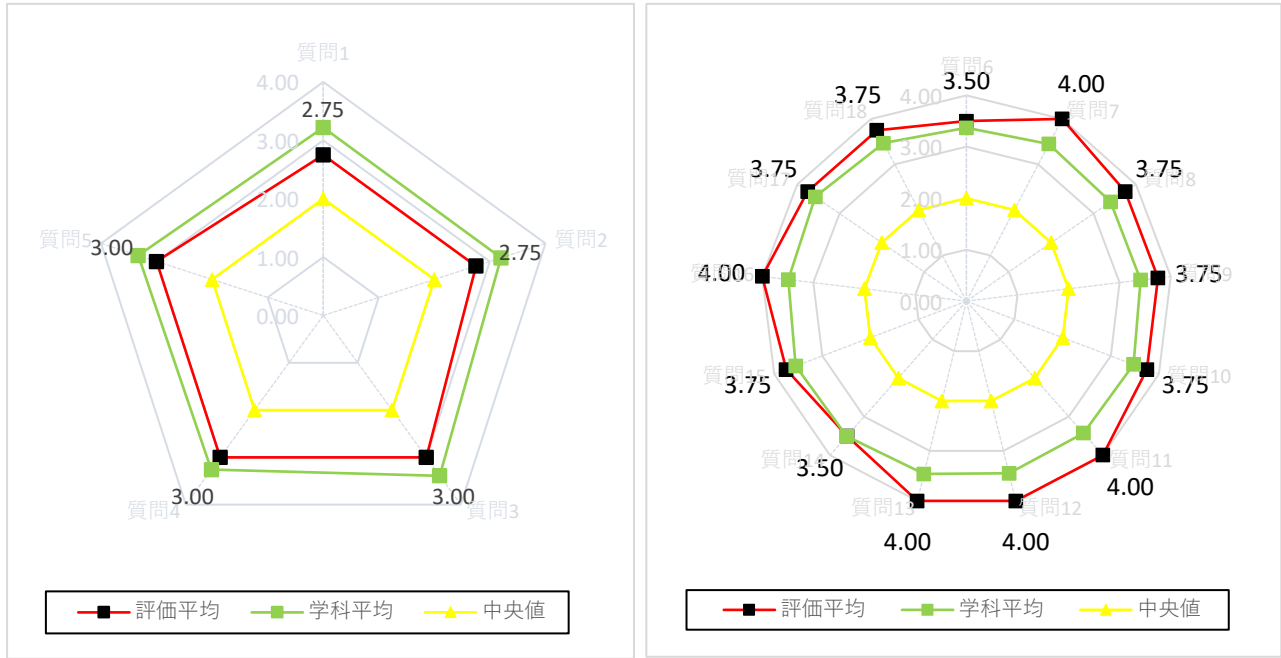
この授業は学外実習のために、実習の事前、事後の指導と各実習施設での取り組みが評価対象となる。授業履修者は3名で、全員が回答している。学生自身に関する内容の質問では、質問1の授業出席と質問2のシラバス活用で1または2の評価をした者がいるが、それ以外の質問ではすべて4評価であった。総合評価も4.0であった。質問6以降の項目では、質問6と質問10で3評価をした者がいたが、それ以外の質問では4.0の回答を得た。質問18の総合的評価も4.0であったことから、授業内容としては良好な評価を得たものと考ええる。学生においては、この現場実習の経験を通して将来の就職や実践的指導に活かしてもらいたい。

（３）次年度に向けての取り組み

実習指導では実習先の担当者に委ねることになるが、事前の指導で実習への取り組みの姿勢や態度そして学生自身の学びについて個別対応で実施している。次年度も同様に貴重な経験が得られるよう指導したい。

| 学部     | 学科       | 担当者 | 科目名       | 履修者数 |
|--------|----------|-----|-----------|------|
| 健康福祉学部 | スポーツ健康福祉 |     | 健康運動総合演習Ⅱ | 5名   |

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

まず質問1から質問5までの学生自身に関わる評価では、すべての項目に1または2に回答した者が数名があり結果として平均2.75や3.0の評価で、総合的には3.0であった。質問6から質問18の評価では、質問14の学生質問への対応に2の評価があったもののそれ以外の項目では3または4の評価で、質問18の総合的には3.75と高い評価を得た。特に質問7、質問11、質問12、室温13、質問16では、すべての履修者より4評価を得たことは満足する。この授業は「健康運動指導士」資格試験のための受験対策講座であり、学生自身の現在の資格試験内容の科目の理解度を確認するとともに自学習への取り組みに?げる授業内容である。今回の履修者は4名と少数であったため、学生自身も緊張感を持ちながら授業に取り組んだものと察する。ただ現場実習や教員採用試験が入ったことそして受験を後期に希望したことで、多少集中力が低下した様子も見受けられた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、授業担当の引き継ぎもあって2名の教員で受験対策の講座を進める。授業履修者も今年度同様に少数と思われるので、学生の学習の理解度や態度に応じた対応をしたいと考えている。特に自学習への取り組みを推進できる工夫を考えたい。そのことによって授業評価もさらに高くなり充実した授業が展開できるものとする。